

2025年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

目次

法人全体	1
エルベ（ケアハウス）	7
淡路エルベ（ケアハウス）	9
東浦エルベ（ケアハウス）	12
山口エルベ（ケアハウス）	15
ヴィラ勝占（特養）	18
グループホーム勝占	20
ヴィラ羽ノ浦（特養）	23
平成デイサービスセンター羽ノ浦	25
ヴィラ本郷（特養）	28
グループホーム本郷	30
ヴィラ都筑（特養）	33
ヴィラ町田（特養）	37
平成デイサービスセンター町田	39
ヴィラ神奈川（特養）	42
平成デイサービスセンター神奈川	44
ケアホーム板橋（特養）	47
グループホーム板橋	49
ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）	50
大谷口地域包括センター	51
ケアホーム葛飾（特養）	54
ケアホーム住吉（特養）	58
グループホーム渭北	64
平成デイサービスセンター渭北	66
グループホーム八万	69
八万小規模多機能センター	70
那賀町鷺敷デイサービスセンター	73
平成デイサービスセンター平田	76
平成在宅介護支援センター平田	78
平成デイサービスセンター黒磯	80
平成ホームヘルプステーション黒磯	82
グループホーム鳴門	85
平成デイサービスセンター鳴門	86
鳴門小規模多機能センター	88

平成デイサービスセンター徳島	91
メディケアハウス平成（有料老人ホーム）	93
訪問ステーションてととと東大阪（訪問看護）	96
訪問ステーションてととと徳島（訪問看護）	100
ケアプランセンター てととと徳島（居宅介護支援事業）	102
OUCHI CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）	105
OUCHI HOME（共同生活援助）	109
西新井まちの相談室（特定相談支援事業）	111
岩国市岩国第三地域包括支援センター	114
サポートハウスココロネ住吉	115

2025年度 事業計画

社会福祉法人 平成記念会

1. 2025年度 事業計画の概要

- 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは96%、通所系は80%以上を目標とする。
 - 訪問系サービスは職員1人あたり1日5名以上の提供を目標とする。
 - 経営分析と戦略策定
 - 相談員の配置の安定、業務の見直しを行い、入退所調整に専従できる環境づくりを行う。
 - 地域の高齢者人口やニーズを把握し、それに合わせたサービスを提供する。
 - 毎月の収支・人員配置等の管理を行い、収益の安定を目指す。
 - 法人、グループ内での連携強化
 - 各事業所との定期的な会議を設け、法令遵守（人員基準・加算算定に関する要件等）に関する相談・研修等を個別に実施する。
 - 協力医療機関との定期的な会議、情報共有、さらに研修・訓練の共同実施を行い、更なる連携強化に努める。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加及び地元住民の避難訓練等への参加を促すなど、地域とのつながりの強化に努める。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続していく。
- サービスの質
 - 生産性向上（介護業務の改善）の取組を強化し、委員会の立ち上げ、業務内容の見直しを行い、サービスの質向上を目指す。
 - 入所者様・利用者様にとって満足のいくサービスとは何かを常に考え、個々に合わせたサービス提供を実施する。
 - 人員配置の見直しを行い、時間外勤務等の削減を行い、職員が気持ちに余裕をもって業務を行えるように法人として取組を行う。
 - 多職種連携の強化と協働ができる体制を推進し利用者の重度化防止の取組を行う。

- 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 認知症介護基礎研修受講、さらなるステップアップとして認知症介護実践リーダー研修の受講
 - Zoom・Google Meet を活用した外部研修への積極的参加
 - 外国人職員の受け入れ後の対応（EPA、技能実習生、特定技能実習生）
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
 - 働きやすい職場環境の提供
 - 適切な人員配置
 - 一律の配置ではなく、業務量に見合った人員配置を行い、一人ひとりの業務負担の軽減を行う。
 - 労働時間の管理・休憩時間の確保
 - 残業時間の削減や、有給休暇の取得を推奨、また十分な休憩時間の確保を行い、休職・離職を防ぐ。
 - 安全な職場環境
 - 感染症対策や、身体的負担軽減につながる設備（ICT等）の活用を積極的に行う。
 - ハラスメント対策の強化
 - ハラスメント防止のための研修や相談窓口を設置し、安心して働ける体制作りを行う。
- 改修工事
 - 全館照明LED工事

2. 運営目標（稼働率、利用者数）

高齢者事業

- 特養（稼働率） *2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
ヴィラ勝占（入所）【50名】 ヴィラ勝占（ショート）【10名】	99.0% 92.1%	99.0%（±0%） 92.9%（0.8%）
ヴィラ羽ノ浦（入所）【50名】 ヴィラ羽ノ浦（ショート）【10名】	99.6% 68.2%	99.8%（+0.2%） 75.0%（+7.8%）
ヴィラ本郷（入所）【30名】 ヴィラ本郷（ショート）【10名】	93.3% 78.6%	96.7%（+3.4%） 88.0%（+9.4%）
ヴィラ都筑（入所）【110名】 ヴィラ本郷（ショート）【10名】	96.5% 88.1%	98.0%（+1.5%） 88.2%（+0.1%）

ヴィラ町田（入所）【200名】	97.0%	98.6%（+1.6%）
ヴィラ本郷（ショート）【20名】	94.0%	98.8%（+4.8%）
ヴィラ神奈川（入所）【140名】	98.9%	99.0%（+0.1%）
ヴィラ神奈川（ショート）【20名】	90.8%	91.0%（+0.2%）
ケアホーム板橋（入所）【200名】	94.6%	98.0%（+3.4%）
ケアホーム板橋（ショート）【20名】	88.0%	93.0%（+5.0%）
ケアホーム葛飾（入所）【120名】	98.5%	98.6%（+0.1%）
ケアホーム葛飾（ショート）【18名】	91.3%	95.5%（+4.2%）
ケアホーム住吉（入所）【100名】	100.7%	100.0%（▲0.7%）
ケアホーム住吉（ショート）【20名】	76.7%	90.9%（+14.2%）

● グループホーム（稼働率）

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
グループホーム勝占【18名】	96.7%	98.2%（+1.5%）
グループホーム本郷【18名】	96.2%	97.6%（+1.4%）
グループホーム板橋【18名】	92.3%	98.0%（+5.7%）
グループホーム渭北【18名】	96.0%	96.5%（+0.5%）
グループホーム八万【18名】	91.9%	97.0%（+5.1%）
グループホーム鳴門【18名】	98.0%	98.9%（+0.9%）

● ケアハウス（稼働率）

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
ケアハウスエルベ（一般）【70名】	96.2%	96.7%（+0.5%）
ケアハウス淡路エルベ（一般）【40名】	97.3%	100.0%（+2.7%）
ケアハウス淡路エルベ（特定）【30名】	90.3%	97.5%（+7.2%）
ケアハウス東浦エルベ（一般）【50名】	97.0%	99.7%（+2.7%）
ケアハウス東浦エルベ（特定）【30名】	90.4%	95.3%（+4.9%）
ケアハウス山口エルベ（一般+特定）【50名】	96.0%	98.0%（+2.0%）
ケアハウス板橋（一般）【20名】	94.2%	100.0%（+5.8%）

● 通所介護（稼働率）

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
平成デイサービスセンター羽ノ浦【20名】	72.1%	79.0%（+6.9%）

平成デイサービスセンター町田【22名】	82.7%	85.2%（+2.5%）
平成デイサービスセンター神奈川【20名】	62.0%	80.0%（+18.0%）
平成デイサービスセンター渭北【23名】	82.0%	89.0%（+7.0%）
那賀町驚敷デイサービスセンター【35名】	60.0%	67.5%（+7.5%）
平成デイサービスセンター平田【50名】	91.7%	91.8%（+0.1%）
平成デイサービスセンター黒磯【35名】	69.4%	74.9%（+5.5%）
平成デイサービスセンター鳴門【25名】	88.8%	92.6%（+3.8%）
平成デイサービスセンター徳島【26名】	89.5%	93.0%（+3.5%）

- 訪問看護（延べ人数）

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
訪問ステーションてととと東大阪	15,213名	16,166名（+953名）
訪問ステーションてととと徳島	21,957名	25,408名（+3,451名）

- 訪問介護（延べ人数）

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
平成ホームヘルパーステーション黒磯	4,365名	4,711名（+346名）

- 小規模（登録者数）

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
八万小規模多機能センター【29名】	27.9名	28.0名（+0.1名）
鳴門小規模多機能センター【29名】	14.3名	17.5名（+3.2名）

- 居宅（ケアプラン数）

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
平成在宅介護支援センター平田	1,664件	1,728件（+64件）
ケアプランセンター てととと徳島	775名	837名（+62名）

- 有料老人ホーム（稼働率）

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
メディケアハウス平成【20名】	98.4%	98.9%（+0.5%）

障がい者事業

- 医療型障害児入所施設（稼働率） *2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
サポートハウスココロネ住吉【稼働50床】	92.1%	99.0%（+6.9%）

- 就労継続支援B型（稼働率） *2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
OUCHI CAFE KITCHEN【20名】	93.7%	95.0%（+1.3%）

- 共同生活援助（稼働率） *2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
OUCHI HOME【14名】	91.6%	100.0%（+8.4%）

- 生活介護（利用者延数） *2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
ココロネリビング【20名】	1,506名	2,061名（+555名）

- 放課後デイサービス（利用者延数） *2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
ココロネクラブ【5名】	908名	969名（+61名）

- 計画相談支援（支援者数/月） *2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
西新井まちの相談室	33.9名	39.0名（+5.1名）

その他事業

- 地域包括支援センター（ケアプラン数） *2024年度：2025年3月の見込値を含む

事業所名	2024年度*	2025年度 目標
大谷口地域包括支援センター	3,545名	3,652名(+107名)
岩国市岩国第三地域包括支援センター	2,015名	1,723名（▲292名）

2025年 3月18日

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

高齢者事業

エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持
 - 稼働率96.7%を必達目標とする。
 - 広報活動を行い、入居者の確保に努める。
 - 繋がりのある居宅介護支援事業所や地域包括支援センターと情報共有を密にする。
 - 長期入院が続いている方には、状況に応じた住まいの選択を提案し、新たに入居を希望される方を受け入れられる調整する。
 - 経営分析と戦略策定
 - ガスと水道の使用量を把握し、節約する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 共有ホールを開放し、入居者や地域住民の方にご自由に利用していただく。
 - 地元のイベントに参加し、地域の方と交流を深める。
 - サービスの質
 - ご家族様や関係者へ近況報告。
 - 職員から入居者に声掛けを行い、気軽に話しかけてもらえる環境作り。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 外部研修やWEB研修に、職員を積極的に参加させる。
 - e－ラーニングを活用した研修の実施。
 - 業務内容を見直し、職員の負担軽減を図る。
 - 適正な人員確保により、時間外労働の減少を図る。

- 主な指標

- 一般

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	96.2%	96.7%（+0.5%）
単価（人・日）	4,141円	4,110円（▲31円）

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへ広報活動を行い、入居希望者を確保する。
- 退去が決定したときは、速やかに待機者の方や担当者の方へ連絡する。
- 入居者の体調変化に目を配る。

2025年 3月18日

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般40名 特定施設30名】

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般-40名 特定施設-30名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - ケアハウス稼働率100%、特定施設97.5%以上を目標
 - 空床期間の短縮と新規入居者の確保に努める。
 - サービスの質
 - 入居者の健康管理をしっかりと行い、健康な状態で継続入居していただけるように個々の状態に合わせた生活支援を行う。認知機能低下予防、ADL維持向上を目的とした余暇活動を実施する。
 - 接遇向上に継続して取り組む。定期的な研修を実施する。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 介護技術、知識向上を目的とした研修会に参加できるよう支援する。
 - 介護福祉士等資格取得につなげる。
 - 整理整頓、業務改善・再構築を行うことにより業務効率化を行う。また、安全で働きやすい職場環境整備に努める。

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

- 一般

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	97.3%	100% (+2.7%)
単価（人・日）	3,764円	3,873円 (+109円)

- 特定施設

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	90.3%	97.5% (+7.2%)
平均要介護度	1.6	1.7 (+0.1)
単価（人・日）	10,346円	10,657円 (+311円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 稼働率100%維持を目指し特定施設97.5%以上を維持する。
- 空床期間の短縮を行うために入院された方の方向性を早期に確認し、入退去が円滑にできるよう調整する。
待機者への連絡調整と新規入居者確保をしっかりと行う。

- 入居者の健康管理を職員全員で努める。
- 平均要介護度
 - 区分変更の検討を行う。
提案を行い、適切な介護度でサービスを提供する。
 - 特定施設で要介護から要支援になった方を一般へサービス移行する。
- 加算について
 - 生活機能向上連携加算I
 - 特定施設利用者すべてに機能訓練を計画的に実施する。また運動を習慣づけていただけるように支援する。併設病院リハビリスタッフとの連携を密に行う。
 - 協力医療機関連携加算
 - 健康状態把握に努め、協力医療機関に詳細な情報提供を行う。定期的な会議の開催、入居者の現病歴等の情報共有を行う。
 - 退居時情報提供加算
 - 心身の状況、生活歴等の情報提供を適切に行う
 - 高齢者施設等感染対策向上加算
 - 医療機関および医師会が運営する研修会への参加
 - 口腔・栄養スクリーニング加算
 - 口腔機能の低下予防の異常の早期発見、食事摂取量、体重の減少等の状態把握に努め、情報共有を行い、状態に応じた支援を行う。
 - 歯科受診や往診の検討を積極的に行う。
 - 科学的介護推進体制加算
 - 利用者の状態管理徹底、フィードバックレポートを委員会で検討、情報の共有を行う。
 - ADL維持等加算
 - BIを適切に評価できる職員を増やす。必要に応じて研修を受ける。
 - BIを適切に評価し、LIFEへの提出を行う。
 - サービス提供体制加算(勤続10年以上介護福祉士割合25%以上)
 - 年間を通して維持できるよう、介護福祉士の割合の確認を行う。
 - 資格を有していない職員の資格取得。新しい資格取得のための研修への参加等を支援する。
 - 生産性向上推進体制加算
 - 利用者の安全確保、業務改善による職員の負担軽減、職場環境の改善を随時委員会で検討する。
- その他取り組み
 - 外出支援
 - 社会性維持のための行事計画を行う。家族様と連絡調整を行い外出の機会を確保する。
 - コープ、コンビニやドラッグストアの無料配達の利用を支援し、買い物ができるようにする。

2025年 3月18日

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名 特定施設-30名】

高齢者事業

東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名 特定施設-30名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率ケアハウス99.7%、特定施設95.3%を目標
 - 待機者のコントロールを行い、急な退居にも対応できるようにする
 - 施設サービスの質の向上
 - 身体機能の維持・向上
 - 週に5回集団体操を実施し、ADLの維持と他者との交流の場を提供し、心身の安定を図る
 - 低栄養予防
 - 体重の増減に伴う食事や嗜好品に関する相談について対応する
 - 職場環境の整備
 - 職員の負担軽減、業務の効率化
 - 5S活動を実施し、共有スペースを多職種がスムーズに業務遂行できるようにする

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

- 一般

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	97.0%	99.7% (+2.7%)
単価（人・日）	3,599円	3,990円 (+391円)

- 特定施設

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	90.4%	95.3% (+4.9%)
平均要介護度	1.4	2.0 (+0.6)
単価（人・日）	9,776円	10,119円 (+343円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 疾病の早期発見、重症化予防
 - 入退院時に医療機関と連携し、生活動作を確認

- 健診後、再検査必要な方へ受診の呼びかけや体調管理
- 転倒予防
 - 適切な靴の選定を支援
 - 居室内の環境整備
- 平均要介護度
 - 有効期限の管理を行い、必要に応じて変更申請を提案
 - 医療機関と連携し、重度の方の受け入れ検討
- 加算について
 - 協力医療機関連携加算
 - 毎月連携会議を実施し、入院中の入居者の状態を把握
 - 新規入居者の情報を提供し、かかりつけ医変更がスムーズに行えるようにする
 - 高齢者施設等感染対策向上加算I・II
 - 協力医療機関が行う研修に参加
 - 集団感染発生時に指導通りに対応できるように周知徹底
 - 生産性向上推進体制加算
 - 利用者の健康管理
 - WHO-5、生活認知機能尺度の実施
 - 外部研修への参加
 - 生活機能向上連携加算II
 - 必要な情報提供によるアセスメントを行い適切な個別訓練の実施
 - 筋力測定実施し、入居者へフィードバック
 - サービス提供体制強化加算I（介護福祉士70%以上）
 - 新たに合格した介護福祉士の資格証の確認、管理
 - 科学的介護推進体制加算
 - 全国平均と比較し、自施設の特色が生かせるように個別訓練を継続
 - ADL維持等加算II
 - 個別訓練内容を定期的に見直し、ADLの維持に努める
- その他取り組み
 - 地域のイベントへの参加
 - 高齢者対象の体操や教室、日帰り旅行への参加を呼びかける
 - 地元の祭りの日程を案内し、島外から来た方へ情報提供

2025年 3月18日

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：一般/特定-50名】

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：一般/特定-50名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 市内の施設や医療機関だけでなく、県東部・隣県まで営業範囲を拡大し、入居希望者を確保して稼働率の維持向上を図る。
 - 地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を中心に積極的な訪問営業を行い、気軽に入居に関する相談をしていただける関係の構築を行う。
 - サービスの質
 - 入居者個々に合った個別機能訓練を行い、ADLの維持向上を図って安全に生活が送れるよう支援する。
 - 入居者を対象に興味関心についてのアンケート調査を行い、実現可能なものからイベントとして立案・開催し、QOLの向上を目指す。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 定期的な勉強会の開催やeラーニングの活用、外部研修への参加を行い、職員のスキルアップを図る。
 - 年次有給休暇の取得数や超過勤務時間の把握を行い、特定の職員に過度な負担がかからないよう配慮する。
 - 働きやすく、意欲をもって業務に取り組むことができる職場づくりを進める。

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

- 一般＋特定

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	全体：96.0% うち一般：0% うち特定：96.0%	全体：98.0%(+2.0%) うち一般：0%(±0%) うち特定：98.0%(+2.0%)
平均要介護度（特定）	1.7	1.7（+0.0）
単価（人・日）	一般：0円 特定：10,068円	一般：— 特定：10,720円（+652円）

※全ての入居者が介護認定を受け、一般入居者がゼロのため

- 実現するための取り組み

- 稼働率
 - 協力医療機関と連携し入居者の健康管理を徹底して、入院等の長期離脱を予防する。

- 積極的な営業活動を行い、入居待機者を確保する。
- 入居者の退居が想定される場合は速やかに新規入居対応を進め、空床日数減に努める。
- 平均要介護度
 - 平均要介護度は1.7程度を想定。
 - 個別機能訓練やレクリエーションの実施によるADL・QOLの維持向上、職員のスキルアップによる対応能力の向上を図り、安定した生活が送れるよう支援する。
- 加算について
 - 協力医療機関連携加算（I）、個別機能訓練加算（I・II）、高齢者施設等感染対策向上加算（I）、口腔・栄養スクリーニング加算、退院・退所時連携加算、科学的介護推進体制加算については前年度同様に継続算定。
 - ADL維持等加算：2024年11月より（II）を算定中。
 - サービス提供体制強化加算：現在（II）を算定中だが、介護福祉士比率の向上により次年度から（I）を算定の見込み。
- その他取り組み
 - 入居者の生活に対する満足度向上のための取り組み
 - 外出機会の増加：季節感などの良い刺激が受けられるよう、外出の機会を増やす。
 - レクリエーションの個別化：選択参加型式のレクリエーションを提供し、入居者のQOL向上を図る。
 - エルベ喫茶：軽食を提供し、音楽を流して寛げる場・他者交流の場の提供を行う。
 - エルベ農園：季節に応じた野菜などの栽培・収穫を入居者と一緒に行う。
 - 移動販売：自身で品物の選択・購入の機会がもてるよう継続して行う。
 - 委員会活動
 - 事故防止委員会
 - 身体拘束廃止委員会
 - 虐待防止委員会
 - 褥瘡防止委員会
 - 衛生・感染防止委員会
 - 給食委員会
 - BCP委員会（非常災害BCP・感染防止BCP）
 - 生産性向上推進委員会
 - LIFE委員会

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

グループホーム勝占【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持
 - 入所系サービスは月99%、ショートは91%を必達目標とする。
 - 退所後の受け入れについては、速やかに入居していただけるよう敷地内の地域医療連携室、近隣の施設及び事業所との連携を図る。
 - 経営分析と戦略策定
 - 医療的ケアが必要な方や他施設での受け入れが困難な方でも積極的に受け入れる。
 - 病院併設の特性を活かし、待機者の獲得に繋げる。
 - 営業活動を強化し、新規獲得に繋げる。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域に開かれた施設として、新館大ホール及び会議室を地域の方々の様々な活動拠点としてご使用いただく。
 - 大規模災害を想定した地域との防災訓練を積極的に実施する。
 - 施設周辺の用水や付近の清掃活動を継続していく。
 -
 - サービスの質
 - 接遇面の向上
 - 身体拘束ゼロ運動の継続、リスクマネジメントにも積極的に取り組み、利用者様、ご家族様との信頼関係の強化に努める。
 - 季節行事やレクリエーションを通し、入居者様の趣味や嗜好を取り入れ、生活への楽しみが増えるよう援助していく。
 - 施設外への遠足を積極的に実施していく。
 - 家族との交流において利用者様の精神的なより所となるよう、良好な援助に努める。
 - サービスに適した人材育成。
 - 介護度の高い利用者様のケアにも応えられるよう、日々自己研鑽に励み、専門性の向上に努める。
 - キャリア段位制度を活用し、介護職員が同じレベルで同じケアが行えるよう支援。
 - 介護未経験者及び新人研修のOJT研修の拡充。
 - 介護福祉士、介護支援専門員等、資格取得に向け研修参加体制を援助する。
 - 喀痰吸引研修への積極的な参加。
 - 職場環境の整備
 - 業務改善委員会を中心に、様々な課題について問題解決に努める。
 - 職員への定期的な面談を実施し、職員間のコミュニケーションの充実を図る。
 - メンタルサポートを実施していく。
 - 有給休暇取得率を上げ、リフレッシュの機会を増やす。
 - ハラスメントの勉強会の実施。
 - 老朽化した床の修繕。
 - 健康管理

- 利用者様の身体的、精神的実態を的確に把握し、敷地内協力病院との連絡を密にし疾病予防に努める。
- 感染症対策を継続し感染予防に努める。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

○ 入所

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	99.0%	99.0% (±0%)
平均要介護度	4.0	4.0 (±0)
単価 (人・日)	15,244円	15,265円 (+21円)

○ ショート

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	92.1%	92.9%(+0.8%)
平均要介護度	3.7	3.7 (±0)
単価 (人・日)	14,450円	14,582円 (+132円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

- 常に待機者を5名以上確保し、退所者ができれば直ぐに入所案内ができる体制を作る。
- 協力医療機関との情報共有と連携を図る。
- 居宅介護支援事業所との連携を図る。
- グループ外への営業活動を積極的に実施。

○ 平均要介護度

- 介護度の見直しを定期的実施し、身体の状態に変化があれば区分変更申請を行う。

○ 加算について

■ 入所

- 看護体制加算IIIの算定ができるよう、安定した職員数の確保に努める。

■ ショート

- 機能訓練指導員を配置し、機能訓練体制加算を取得する。
- 医療頻度の高い利用者様を積極的に受け入れ、医療連携加算を取得する。

○ その他取り組み

- 仕事に目標を掲げ、モチベーションアップに繋げる。
- 南海トラフ地震を想定した防災への備えと充実した研修。
- BCPの定期的な訓練と見直し。
- 地域との交流を図り、ボランティアの受け入れを拡大し、開かれた介護施設として利用していただけるよう努める。

グループホーム勝占【定員：18名】

- 事業計画の概要

- 経営

- 稼働率の維持・向上

- 年間を通して稼働率98%を目標とする。
 - 協力病院や併施設との連携を強化し、入退居をスムーズに行う。

- 地域密着型サービスとしての地域活動

- 運営推進会議において地域の民生委員と活発な意見交換。
 - 地域住民及び消防分団参加型の防災避難訓練実施の継続。
 - 地域の清掃活動の実施。
 - 地域のボランティアの受け入れ。

- サービスの質

- 入居者満足の追及

- 本人の望む生活が送れるよう個別ケアの徹底。
 - 季節の行事や日常的な余暇活動の充実。
 - 施設内に留まらず戸外にも目を向けた外出支援。
 - 栄養バランスの取れた美味しく食べやすい食事の提供。
 - 入居者や家族からの相談や苦情への迅速かつ丁寧な対応。

- 職員満足の追及

- 日々の業務に対するフィードバック。
 - ワークライフバランスの充実。
 - 有給休暇取得率のアップ。

- 人材育成、職場環境の整備

- 研修や勉強会の充実

- WEB研修やe-ラーニングの積極的な活用。
 - グループホーム内での勉強会の充実。
 - 同じ職員に偏ることなく交代で法人内外の研修会や勉強会に参加。

- 長期的に働きやすい職場環境の整備

- 連続休暇や有給休暇を取得しやすい雰囲気作りや環境の整備。
 - 職員の意見を聞き入れながら、業務の見直しと適正化を図る。
 - 職員同士のコミュニケーションを活性化し定着率を向上させる。

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	96.7%	98.2% (+1.5%)
平均要介護度	2.5	2.7 (+0.2)
単価（人・日）	13,049円	13,068円 (+19円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 常日頃より協力医療機関のMSWや老健の支援相談員、特養の施設長及びケアマネ等と連携を密に取り、入居希望者や入居検討中の方の把握と情報収集を行う。
 - 近隣の系列施設とも連携を図り、稼働状況や待機者等の情報を共有する。
 - 待機者を確保し、退居が生じた場合にすぐ次の受け入れができる体制を整える。
 - 平均要介護度
 - 要介護度が高い方を積極的に受け入れる。
 - 状態に応じて要介護度を見直し区分変更を検討する。
 - 加算について
 - 退所時情報提供加算（Ⅱ）の算定
 - 昨年度は短期間の入院を経てグループホームへ戻って来られた方が大半で算定に至らなかった為、医療機関への入院（退居）が生じた場合には取りこぼしのないよう算定する。
 - サービス提供体制強化加算（Ⅱ）の算定
 - 介護福祉士の割合が（Ⅰ）の算定基準を満たさず、今年度も（Ⅱ）を算定予定としている。来年度（Ⅰ）を算定できるよう無資格者への資格取得に向けたバックアップを行いながら、長期的に働きやすい職場環境を整える。
 - その他取り組み
 - 余暇活動の充実

入居者の希望を取り入れながら、より楽しんでいただけるレクリエーションや脳トレを提供する。また、戸外に目を向けた行事を企画し外出の機会を増やす。
 - 家族交流

昨年度より再開し好評を得た家族会を継続して開催する。

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 特養は2024年度は99.6%の稼働となっており、2025年度も可能な限り100%に近い稼働を目標とする。
 - ショートステイは今期、主に冬場のロングショート利用者の入院、特養入所切替があり稼働を大きく落としたが、2月後半の稼働は8割超えとなっている。現在受けている新規問い合わせ者の定着も見込んで90%を目標とする。
 - 新規入所・利用者増及びスムーズな連携を図るため、居宅介護支援事業所のケアマネや住宅系施設管理者等とは、やり取りの手段を問わず、日頃から気軽に相談し合える関係を築く。
 - 経営分析と戦略策定
 - 稼働による収入、人件費や購入・修繕による支出状況を常に経理部門と共有することで安定した収支対策を実行する。
 - 毎月の収支を施設長はじめ各所属長も把握する。
 - 物価高の影響は現場職員にも認識させ、経営に対する意識を持つ。
 - 地域貢献活動の充実
 - 2023年度より継続開催している介護予防教室（羽ノ浦健康クラブ）の参加者増並びに参加者のご家族や状況によりご本人を介護サービスへ繋げる。
 - 施設近隣で開催されるお祭りや地域活動への参加
 - 近隣の子どもセンター、小中学校との交流行事・慰問の呼び掛けをする。
 - 自然災害、火災、パンデミック、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合に備え、避難・救出・非常時対応・その他必要な訓練を実施する。地域住民や市防災担当課、近隣の高齢者施設とも協力して地域ぐるみで防災連携・意識向上に努める。
 - 看取り対応の充実
 - 入所部門では近年増加傾向にある施設での看取りを希望する入所者の受入れ体制を整えるべくアドバンス・ケア・プランニング（ACP）相談員研修の新規受講者を選定する。
 - ACP相談員研修受講者を中心に、生活の場としての機能を保ちつつ、看取りに対応できる体制を構築していく。
 - 通所及び短期入所の在宅部門においても地域包括ケアシステムを担う一施設として、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようサービス提供に努める。

○ 人材育成、職場環境の整備

■ 研修の実施

- 介護福祉士国家試験受験要件を満たす職員の資格取得を支援する。
- 介護支援専門員受験要件を満たしている職員への受験呼び掛け及び試験合格者には実務研修受講のための勤務調整をする。
- 新入職の無資格職員に対して認知症介護基礎研修を受講させる。
- 外国人職員（3号技能実習生・特定技能1号・EPA）の職員に日本語検定試験の受験機会を与え、介護福祉士国家試験受験に向けた日本語学習支援を行う。
- 今年度新規トレーナー職員を配置したことによりグループ全体で取り組むキャリア段位制度の体制が整いつつあるので、新入職員だけでなく、中堅・ベテランに対する指導・研修体系も充実させる。
- 介護職員のたんの吸引等研修の受講を希望する職員には受講機会を与える。
- 看取りの体制を推進するため職員の対応力、倫理観の向上に努める。

■ 有事に備えた避難・誘導・対応及び事業継続計画（BCP）訓練の実施。

- 各種対応マニュアルを見直し、現状に沿った内容に更新する。
- 年2回の防災訓練実施に合わせてBCP訓練の実施及び備蓄を整理する。

■ 業務量の適切な管理と何事も相談できる風通しの良い職場環境を築く。

○ 改修工事

- 屋内電灯（蛍光灯）からLED電灯への切替工事を着工し、2026年末までの入替を目指す。
- 現在使用している機械浴の老朽化並びに入所者の重度化を鑑み、寝台浴の導入及び一階一般浴室にバスラックを使用したリフト浴の整備を計画する。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

○ 入所

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	99.6%	99.8% (+0.2%)
平均要介護度	4.1	4.1 (±0)
単価（人・日）	12,986円	13,010円 (+24円)

○ ショート

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	68.2%	75.0% (+7.8%)
平均要介護度	3.1	3.1 (±0)
単価 (人・日)	12,068円	11,955円 (▲113円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

- 入所者の体調管理（早期の体調変化に気付く現場の観察・対応力の向上）
- 近隣病院との連携（入院した入所者の状態・退院見込みの把握及び当該者の回復を待つか、新規受入れすべきかの的確な状況判断）
- 併設デイサービス利用者家族へのレスパイトショート利用の勧誘
- 近隣居宅介護支援事業所ケアマネジャーとのフラットな関係構築

○ 平均要介護度

- 近隣病院からの受入れ（重度要介護者、在宅復帰困難者の受け入れ調整）
- 在宅生活継続困難者の受入れ
- 現入所者の適切な要介護度区分変更申請

○ 加算について

- （算定復活）看護体制加算Ⅲ・Ⅳの算定【ショート】

○ その他取り組み

- 広報誌の発行及び配布
- ホームページを活用した情報発信、行事や取り組み等の広報の充実
- 地域活動（ボランティア）への参加

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

● 事業計画の概要

○ 経営

■ 稼働率の改善

- 2024年度の稼働率72.1%に現在新規問合せをいただいている方の定着を加味して稼働率79%を目標とする。
- 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターのケアマネジャーと連携し、在宅生活の継続を支援する
- 近隣の病院連携室や老健相談員とも連携を図り、退院者・在宅復帰者を新規利用へ繋ぐ。
- 将来的な利用者獲得のため介護予防教室（羽ノ浦健康クラブ）を継続開催し、参加者のご家族や状況によりご本人を介護サービスへ繋げる。
- ボランティアや地域活動への参加を通して事業所名の周知を図り、

職員と顔の見える関係を築く。

- サービスの質
 - 地域包括ケアシステム的一端を担う事業所としての自覚を持ち、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、サービス提供に努める。
- 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 介護福祉士国家試験受験要件を満たす職員の資格取得を支援する。
 - 併設特養と一体的に職員教育体制を構築する。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	72.1%	79.0% (+6.9%)
平均要介護度	2.1	1.8 (▲0.3)
単価 (人・日)	8,174円	8,235円 (+61円)

● 実現するための取り組み

- 稼働率
 - 近隣居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連による新規利用者獲得
 - 併設短期入所利用を活用した在宅生活継続（家族）支援
- 平均要介護度
 - 重度要介護者の利用促進（新規及び利用日数増）
- 加算について
 - 栄養アセスメント加算（2024.12～）算定開始
- その他取り組み
 - 広報誌、事業所アピールチラシの作成及び配布
 - ホームページを活用した情報発信、行事や取り組み等の広報の充実

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名 ショート-10名】

グループホーム本郷【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所サービスは96.7%を目標とする。
 - ショートステイは88.0%を目標とする。
 - 事業利益をプラスにする。
 - 経営分析と戦略策定
 - 収支状況の把握を継続的に確認し、課題の原因究明・精査を行う。
具体的な改善策を施設内で検討できる機会を設け、施設全体で経営向上に繋げる。
 - 消耗品等は定期で在庫および消費調査を行い、数値化して無駄削減を図り、可能な限りコスト削減を図る。
 - 水光熱費用についても具体的な数値を職員に共有し、具体的な使用方法についても指導。無駄な使用を少なくできるよう働きかける。
 - 地域貢献活動の充実
 - 岩国市公益活動推進協議会や周辺関係機関と協力し、地域貢献活動を推進するとともに、福祉に係る問題についての検討を継続する。
 - 社会福祉協議会および他法人と協力し、岩国フードバンクステーションの円滑な運営を行う。
 - サービスの質
 - 研修を通じてグループ基準の介護方法の理解を進め、利用者および職員負担が少ない介護技術を実践する。
 - 固定観念にとらわれず、利用者一人一人の視点、意向に沿ったサービスや支援を進める。
 - 家族向け相談会や施設見学会、誰でも参加できるイベントの企画など、外部に向けての発信を増やす。並行して施設として求められているニーズやアピールポイントを探り、営業活動へと繋げていきたい。
 - 求人活動
 - 無料・有料求人媒体や紹介業者などの活用。
 - 地域的に獲得が難しい調理師・看護師については、大学や専門学校への学校訪問を定期実施する。
 - 近隣へのポスティング、チラシ配布など地域の方への働きかけをすすめ、必要な従業員の確保に努める。

- 人材育成、職場環境の整備

- 研修の実施

- WEB研修に加え、外部研修への積極的参加を行う。
 - 介護トレーナーによる介護技術研修を定期実施し、施設全体の介護技術および意識向上を図る。

- 環境の整備

- 感染症が発生した際も適切な対応で運営への影響を最小限にできるよう、感染症への理解と対策継続に努める。
 - 適正な勤怠管理と時間外労働の削減に努め、職員が働きやすい職場を目指す。また職員との定期面談を実施、離職率の低下を図る。

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

- 入所

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	93.3%	96.7% (+3.4%)
平均要介護度	4.1	4.1 (±0)
単価 (人・日)	13,627円	13,700円 (+73円)

- ショート

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	78.6%	88.0% (+9.4%)
平均要介護度	2.4	2.4 (±0)
単価 (人・日)	10,983円	11,108円 (+125円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 入所申込者、待機者の確保が第一優先。グループホーム本郷と合同で、営業活動を推進する。営業方法についても従来実施しているものだけでなく様々な方法でアピールしていく。
 - 施設の経営状況について職員に情報共有を行い、施設全体で運営について考えていけるように進めていく。
 - 協力病院との円滑な入退所を行えるよう、常に情報共有ができる体制を確立する。また定期的な会議を開催し情報交換および入退所の検討を行う。

- 利用者の状態把握に努め、突発的な入院が発生する前に入退所調整を行えるよう協力病院および介護療養院等と連携する。
- 平均要介護度
 - 平均要介護度は、入所は4.1、短期は2.4を想定。
 - 定期的に介護度の見直しおよび変更申請、居宅ケアマネへの働きかけを行い、介護負担に見合った報酬獲得を目指す。
- 加算について
 - 入所は日常生活継続支援加算Iを継続算定できるように調整する。
 - ショートはサービス提供体制強化加算IIの算定となるが、将来的に加算Iを再算定できるように介護福祉士取得の援助を進めていく。また、より働きやすい職場を作ることによって離職防止を図る。
 - 看護師の人員確保および体制を整え、看護体制加算IIの再算定を目指す。
 - 栄養部の人員が充足できれば、訪問等の新規加算の算定を目指す。
 - 自施設のみならず、グループ内他施設の加算算定についても、積極的に協力できるように努める。

グループホーム本郷【定員：18名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の改善
 - 97%以上を目標とする。
 - 施設内でのご利用者の感染防止及び事故防止に努め、入院による稼働率低下を減らす。また、入院による退居は適切且つ迅速に判断するものとする。
 - 黒字化への情熱を全職員で共有。
 - 地域支援および地域交流
 - 地域唯一のグループホームとして、地域の生活を支える重要な社会資源としての誇りと責任を胸に刻む。
 - 地域の行事や会議に関わるなどして地域交流を推進しながら地域の将来像策定に関与していく。
 - 地域で最も困っているご家庭からの入居の受入れによる高評価・高感謝の取得。
 - サービスの質
 - 生き生き計画2025
 - 地域ボランティアやイベントの職員及びご利用者参加
 - 地域の各分野のスペシャリストとの交流による職員の知見と提供

サービスの向上

- 保育園等との日常的な交流
- 職員個々の個性を積極的に前に出した特色あるサービスの提供

○ 人材育成、職場環境の整備

■ 職員の能力開発と職場の満足度向上

- 外部研修や法人内研修への積極的な職員派遣
- 職員の各種資格習得を支援
- 職員への責任ある業務の拡充による責任感、業務自由度、やりがいの向上。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	96.2%	97.6% (+1.4%)
平均要介護度	2.4	2.4 (±0)
単価 (人・日)	12,028円	12,041円 (+13円)

○ 実現するための取り組み

■ 稼働率

- 高稼働率ユニットと低稼働率ユニットが存在する事の原因究明と対策。
- 入院時の迅速な退去判断と新規の受け入れ。
- 申込者との定期的連絡による継続的な最新状況のアップデート。

■ 平均要介護度

- 平均要介護度は本年度と同等の2.4を想定。

■ 加算について

- 栄養管理体制加算の開始
- 看護師の確保による医療連携体制加算の再開を目指す

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名 ショート-10名】

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは98.0%、ショートステイは88.2%を必達目標とする。
 - 地域医療機関との連携体制確立し、入退所連携・情報共有システムを確立し入退院による稼働率変動を最小限にする。
 - 体調不良の兆候を早期発見・早期治療の体制づくりを行う。
 - 入院する主訴を分析し、対策を講じる。
 - 感染対策徹底、および策定したBCPを用い、実践訓練を行い災害による運営被害を最小限にする。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の請求内容の確認及び加算の算定状況チェックにより、基準の確認や上位加算へのチャレンジを評価し、算定漏れを防ぐ。
 - 稼働や支出状況をグラフ・表などで可視化し現状を共有し共通認識をもって取り組む。
 - 節電の強化と使用物品を改め無駄な出費を減らす。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域交流の強化の一環として、オレンジカフェ等に参加。
 - 都筑区のイベントに積極的に参加。
 - 施設のイベント（秋祭り等）に地域の方を呼び関りを増やす
 - 福祉避難所として感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築。また備蓄の管理に努める。
 - サービスの質
 - 介護技術・知識を常に学ぶ機会を設け、『根拠のある介護』を目標に学び続ける。
 - アクシデント後の他部署とのカンファレンスを強化し再発防止に努める。
 - 利用者を安心して預からせていただくために相談員・ケアマネージャーは利用者の状態を家族に都度伝えていく。
 - 利用者のIADLに応えられる生活環境の見直しを行う
 - 設え・空間作りにこだわる
 - 個人の要望に合わせたレクリエーションを提供

○ 人材育成、職場環境の整備

■ 研修の実施

- 新卒職員に対するOJT研修体系の確立
- 無資格者への認知症介護基礎研修受講
- 各部署の役職者を立て、他職種連携の強化に努める
- 看護主任が特定行為研修を受講中。医療スキルの向上に努める

■ 災害対策マニュアル類の整備、周知、訓練の徹底

■ 修繕・修理・新規導入の評価および実施による安全な職場環境の構築

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

○ 入所

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	96.5%	98.0% (+1.5%)
平均要介護度	3.7	3.7 (±0)
単価 (人・日)	15,660円	15,740円 (+80円)

○ ショート

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	88.1%	88.2% (+0.1%)
平均要介護度	3.1	3.1 (±0)
単価 (人・日)	15,534円	15,812円 (+278円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

■ 入院者数の減少

- 毎週1回多職種運営会議実施。体調不良者の共有・ADL低下兆候に対する専門職の介入を強化する。
- 入院する傾向を分析し対策を講じる。

■ 地域営業強化

- 広報誌・ホームページでの自施設のアピール強化
- 地域自治体との連携会議への参加

○ 平均要介護度

- 認知機能低下やBPSDの方の受け入れも積極的に受けていく
- 介護度の高い方を横浜市の順位に沿って受け入れを行う
- 医療度の高い方を受けていく。(インスリン・透析・胃瘻等)

- 加算について
 - 特養
 - 生産性向上推進体制加算の新規算定
 - ショート
 - 生産性向上推進体制加算の新規算定
- その他取り組み
 - 離職率改善の取組
 - 介護福祉士の新卒クリニカルラダー3年目の導入
 - 役職者から現場のスタッフとの 1 on 1 を実施。
 - ストレスチェックにより産業医と連携したメンタルフォローの実施
 - 時間外勤務の改善
 - 施設理念・方針の職員解釈のサポートと目的を持った働き方の支援
 - 利用者レクリエーションの充実
 - 毎月の誕生日会の開催
 - 季節ごとのレクリエーション計画・実施・評価・改善の実施
 - レクリエーション後、家族への写真提供を行い利用者の反応を家族と共有する。※家族との施設生活の情報共有を強化する
 - 性別・年齢・認知度に応じた個別レクリエーションの実施

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名 ショート-20名】

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：22名】

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名 ショート-20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の目標
 - 入所系サービスは98.6%、ショートステイは98.8%を必達目標とする。
入所申込者の事前面談、入所判定、2次判定を迅速に行い、新規利用者様の獲得を目指す。
 - 協力病院、近隣病院、地域連携との関係を強化し、スムーズな入退所を実施していく。
 - 入退所の動きを分析し、日々のミーティングの実施。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支状況を把握し、稼働率、支出の状況等、対策案を考案していく。
運営会議で収支関係の報告を行っていく。また人員配置の適正化を見直していく。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 近隣2ヶ所の団地の高齢者の買い物送迎サービスを行っていく。毎月2回
 - 地域行事への参加
毎月第一日曜日に横浜線相原駅前にて相原マーケットに出店し、地域住民との交流を図る。
相原地区のイベントには積極的に参加していく。
 - 事業所、法人として地域に貢献した福祉サービスの提供を継続していく。
 - 近隣の大学生に対し、年間を通じてボランティアの受け入れを継続していく。
 - 町田市災害時の二次避難施設として協定を締結しているため、災害時には要介護者、障がい者の受入を実施。

○ サービスの質

- 利用者さんにとって居心地の良い空間であること、安心して過ごせる環境を提供する。
 - 毎年行う第三者評価機関の利用者聞き取り調査を実施し、サービスの質の向上に努める。
 - チームとして技術面や接遇面においても一定の基準を定め、利用者のQOLの向上に努めていく。
 - 職員の接遇、技術面の向上に向け、指導体制を整えていく。
- 看取り介護に向けて職員の意識付けを実施していく。

○ 人材育成、職場環境の整備

- 研修の実施
 - 無資格者への認知症介護基礎研修の受講
 - 階層別研修の実施
 - 教育専門担当職員の配置、ラダーの確立
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
 - 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
 - 新人職員の評価の実施
- マニュアル類の整備、周知の徹底
 - 各委員会で適宜マニュアルの見直しの実施。
 - 年に2回の虐待の目チェックリストの実施
- 業務量の適切な管理と信頼関係を築ける環境の整備
 - 生産性向上体制加算の算定に向け、職員の負担軽減に関する方策を定期的に確認していく。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

○ 入所

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	97.0%	98.6% (+1.6)
平均要介護度	3.6	3.6 (±0)
単価 (人・日)	15,215円	15,268円 (+53円)

○ ショート

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	94.0%	98.8% (+4.8%)
平均要介護度	2.9	3.2 (+0.3)
単価 (人・日)	14,892円	15,361円 (+469円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

- 特養の入所待機者を常時確保し、ショートスティのご利用を促しながらすくに入所へ切り替えられる体勢を整える。
- 入院者が減少できるよう、各部署が低栄養リスク者の早期発見、改善に向けてアセスメントしていく。
- 毎日のミーティングを実施し、稼働に関する意識づけを行っていく。

○ 平均要介護度

- 入所申込みがあれば順次入所へつなげていく。全介助が必要な利用者と併用し平均要介護度3.2程度。
- 要介護度が低い特例入所の申込もあるため、介護度が高い方と併用し入所に繋げていく。

○ 加算について

- 生産性向上推進体制加算 (Ⅱ) 新規算定

○ その他取り組み

- 全体行事の実施 (季節を感じる行事)
- 毎月第一日曜日誕生会の実施・第4日曜日ヴィラ町喫茶実施
- 感染予防に努め環境整備、教育の徹底
- 営業を絶やさない
- 法政大学ボランティアの受け入れ

平成デイサービスセンター町田 (通所介護) 【定員：22名】

● 事業計画の概要

○ 経営

- 稼働率85.2%を目指し、平均利用者18.7名を目指す。
総合事業は毎月6名程の利用を目指す。
目標とする毎日登録者23名を継続していく。

- サービスの質
 - ご自宅の生活に特化した生活リハビリメニュー。
 - 重度化の防止（個別リハビリ）
 - 個別機能訓練加算（I）□の算定を行っていく。
- 人材育成、職場環境の整備
 - 安全に利用していただけるよう、感染防止対策の強化。
 - マニュアルの整備。
 - フロア内の整理整頓

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	82.7%	85.2%（2.5%）
平均要介護度	2.2	2.1（▲0.1）
単価（人・日）	9,794円	9,969円（+175円）

● 実現するための取り組み

- 稼働率
 - 曜日の斑をなくす。登録人数は平均23名、平均的な利用人数は18～19名を目指す。
居宅支援事業所への営業を欠かさず利用者様の情報、新規利用者様の獲得を行う。
- 平均要介護度
 - 平均要介護の低下にはなるが、要支援1、2の受け入れを強化し自立支援に向けての支援を行う。
- 加算について
 - 個別機能訓練加算（I）□
 - ADL維持等加算
 - サービス提供体制強化加算（II）18単位
- その他取り組み
 - 利用者様のリクエストが多い企画の実施（華道、外食レク、外出行事等）
 - 自立支援の取り組み
 - リハビリ環境の見直し
 - 営業の強化
 - 職員の教育・指導（平均化した業務体制づくり）

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名 ショート-20名】

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名 ショート-20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは99.0%を必達目標とする。
 - 地域医療機関・協力医療機関との連携を強化し、円滑な入退所の仕組みを構築する。
 - 毎月の新規申込者数を10名以上で維持する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の請求状況・支出状況を把握し、分析・対策する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域ケアプラザおよび社会福祉協議会、近隣の高齢者施設、自治会と連携して、地域の高齢者の移動支援・生活支援をする。
 - 感染症・災害発生時であっても事業所として必要な介護サービスの提供を継続していく。
 - サービスの質
 - 多職種連携し、自立支援・重度化防止の取り組みを推進する。
 - 協力医療機関と連携し、入居者の健康管理・急変時の円滑な対応に努める。
 - 看取り介護の実践を積み、ご利用者・ご家族の希望に寄り添った介護を追求する。
 - ユニットの環境を見直し、居心地の良い空間づくりを整備する。
 - 外出レクリエーションや施設内での買い物する機会を増やす。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 感染症BCP計画に基づいた実践的研修の実施
 - 自然災害用BCP計画に基づいた実用的な災害訓練の実施
 - 看取り介護の研修の実施
 - 新入職員（特に無資格者）に対する研修の充実
 - ユニットリーダー候補の教育
 - 外国人人材受入れ後の対応(技能実習生・特定技能)
 - 生産性向上・安全な職場環境の整備
 - 見守り機器や介護ソフトの使用について議論し、有効活用する
 - ユニットの環境を見直し、職員の動線を整える。
 - 小型寝台浴の導入に伴うマニュアルの整備、安全管理の徹底

- エアコンの室外機・室内機の定期点検を行い、故障の早期発見・対処に努める。
- 大型厨房機器の入替、換気設備の入替の検討

- 主な指標

- 入所

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	98.9%	99.0% (+0.1%)
平均要介護度	3.9	3.9 (±0)
単価 (人・日)	15,410円	15,463円 (+53円)

- ショート

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	90.8%	91.0% (+0.2%)
平均要介護度	2.9	2.8 (▲0.1)
単価 (人・日)	14,923円	15,228円 (+305円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 空床発生時の対応

- 併設ショートステイに入所待機者を確保し、空床発生時すぐに入所できる体制を整える。また、ショートステイ利用者を空床利用で受入れる
- 地域医療機関・協力医療機関と連絡を密に取り、入院者の状況を常に把握しベッドコントロールへ繋げる

- 地域への営業

- 近隣医療機関および介護保健施設、居宅介護支援事業所と定期的に連絡をとり、情報共有を図る
- 施設ホームページの充実化を図り、宣伝を強化する

- 平均要介護度

- BPSD等の症状発現により在宅生活の継続困難な重度認知症者を受け入れていく

- 加算について

- 生産性向上推進体制加算の新規算定に向けての取り組み
- 介護職員等処遇改善加算(I)の算定

- その他取り組み
 - 快適な職場環境づくり
 - 各種委員会を中心としたイベントの企画
 - 園芸クラブ、音楽隊、運動部、釣り部の実施
 - 休憩室の充実
 - 椅子・テーブルの配置や物品の整理
 - 食堂の充実
 - 職員用トレイを廃止し、個別の食器に切替

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持・改善
 - 通所系は必達目標80%とする
 - 居宅介護支援事業所への営業・地域での認知度向上を図る
 - サービスの質
 - 利用者様が活動的になる自立支援・重度化防止に向けての取り組みを推進する。
 - 利用者様の趣味・嗜好に合わせたサービスの提供・リハビリの実施
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 感染症BCP計画に基づいた実践的研修の実施
 - 自然災害BCP計画に基づいた訓練の実施
 - デイフロアの環境を見直し、利用者・職員の動線を整える。
 - 新入職員（特に無資格者）に対する研修の充実
- 主な指標 *2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	62.0%	80.0% (+18.0%)
平均要介護度	1.9	1.9 (±0)
単価（人・日）	9,422円	9,835円 (+413円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 居宅介護支援事業所と連絡を密に取り、ご利用者を紹介してもらえように努める。
 - 登録者数を1日平均23名にする。また欠席者へ振替利用を促せるようなイベントを実施する。

- 大型団地を中心にポスティングを行い、施設の認知度向上を図る
- 平均要介護度
 - 重度認知症者や医療処置を要する介護度の高い方も受け入れていく。
- 加算について
 - サービス提供体制強化加算(I)の継続算定
 - 介護職員等処遇改善加算(I)の継続算定
- その他取り組み
 - 個別性のあるイベント・レクリエーションの実施
 - ご利用者へ希望の聞き取り
 - 行きたいところに行く、やってみたいことを実現するための支援
 - 少人数での買い物等の外出訓練の実施
 - 選択できるレクリエーションの実施
 - 複数種類のレクを並行実施
 - 利用者満足度調査より、要望が多かったレクリエーションの実施

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名 従来型-60名 ショート-20名】

グループホーム板橋【定員：18名】

ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

大谷口地域包括センター（地域包括）

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名 従来型-60名 ショート-20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービス（ユニット）は97.5%、（従来）は99.1%、（ショート）は93.0%を必達目標とする。
 - 入院者数の減少と入院者の退院再入所をスムーズに行い、稼働の維持に努める。
 - 即日、入所判定会議を開催しタイムロス無くし入所をスムーズにする。
 - 問い合わせに対し、相談員がすぐに対応出来るシステム作りに尽力する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握し、問題点の解決案を検討する。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 加算の取得状況を精査し、改善策を検討する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 地域の防災活動に参加するとともに福祉避難所としての準備を行い災害時の受入を実施する。
 - サービスの質
 - 利用者最優先で、高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。CS活動を活発化しニーズの調査や第三者評価の実施による適切な評価を基にサービスの質の向上に努める。
 - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する。
 - 動物介在活動によるサービスの質の向上
 - ケアホーム板橋に居る常駐犬(スタッフ犬)による動物介在活動による癒しと日常生活の生きがいを提供する。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的参加と資格取得の支援
 - 無資格者への認知症基礎研修の受講を推進
 - 介護職員の喀痰吸引等研修の受講を推進
 - 接遇マナーの向上
 - ラダー導入による知識技術の向上に努める。
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立
 - 中途入職者研修の実施。グループ及び施設の理念を理解する。
 - マニュアル類の整備、周知の徹底

■ 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

○ 入所(ユニット)

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	94.2%	97.5% (+3.3%)
平均要介護度	4.1	4.2 (+0.1)
単価 (人・日)	16,068円	16,193円 (+125円)

○ 入所(従来)

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	95.3%	99.1% (+3.8%)
平均要介護度	3.8	3.9 (+0.1)
単価 (人・日)	13,431円	13,523円 (+92円)

○ ショート

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	88.0%	93.0% (+5.0%)
平均要介護度	2.8	2.9 (+0.1)
単価 (人・日)	15,983円	16,252円 (+269円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

■ 地域病院との連携強化

- 地域病院と連絡を取り退院の目途が立ちそうな方の情報共有を行い、入退所の予測を行いながらベッドコントロールを行う。

■ 待機者の確保

- 常時5人の待機者を確保する。
 - 入所判定会議は即日行い、判定までの時間を短縮し、目標値までの待機者がいない場合は、上位者の面談を行う。
 - 施設待機者を2名以上確保していく。
- 新規申込者と問い合わせへの即時対応
 - 新規申し込みの方への実調スケジュールを即時対応出来る体制作り

- 問い合わせに対して相談員がすぐに対応出来る環境設定。
- 入居者体調管理により入院者数の減少
 - 栄養評価や尿路感染、誤嚥性肺炎の予防に努め入院が必要となるリスクを未然に防ぐ。
- 平均要介護度
 - 平均要介護度4.2以上を目指し医療依存度の高い利用者の積極的な受け入れを行う
 - 胃瘻、腸瘻、透析患者、インスリンの必要な利用者の受け入れ
- 加算について
 - 生産性向上推進体制加算
 - 経口維持加算
- その他の取り組み
 - ご家族への情報提供
 - ケア板通信の充実、レクや日常生活でのフォト、職員からのメッセージカードを請求書発送時に送付する。また、施設イベントへの招待。
 - 看取りの実施と活動の質の向上（現在10症例実施）
 - 地域や幅広い人々への広報活動
 - ケアホーム板橋でオリジナルで作成した年間号「ケア板times」の作成を行い広報活動に力を入れる。
 - 地域向けのイベント「～ひ・ら・く～ケア板ふれあいフェスティバル」の実施を行う。
 - 幅広い分野での貢献活動
 - 動物保護団体との接点をもち、保護猫の受け入れや動物保護プログラムへの参加を実施する。

グループホーム板橋【定員：18名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の向上と維持
 - 稼働率98%を目標とする
 - サービスの質
 - 複合施設の強みの活用(包括支援センター、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士との連携相談)
 - イベントの充実と家族と繋がり強化
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 認知症スペシャリストの養成（主な研修として）
 - 認知症介護実践リーダー研修
 - 認知症の行動心理症状の予防等に資するケアプログラムを含んだ研修
 - 外部研修の参加と内部研修実施による養成

- 毎月勉強会開催
- その他の取り組み
 - 看取りの実施と活動の質の向上(現在看取り3症例実施)

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	92.3%	98.0% (+5.7%)
平均要介護度	2.9	2.9 (±0)
単価 (人・日)	15,022円	15,175円 (+153円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 待機の確保
 - 2名以上の待機者を確保する
 - 5日以内で入居案内を行う
 - 待機者ゼロの場合、沿線上他区の需要を取り込む
 - 平均要介護度
 - 平均要介護度2.9以上を目指し、要介護度の高い利用者について積極的な受け入れを行う。
 - 加算について
 - 看取り介護加算の算定
 - サービス提供体制強化加算I(継続)
 - 認知症専門ケア加算（I）又は認知症チームケア推進加算（II）の取得努力
 - その他取り組み
 - 認知症ケア専門性の向上を積極的に行い、より多くの専門性が発揮できるグループホームを目指し、認知症ケアの質の向上を図る。
 - 認知症介護実践者研修・認知症介護実践者リーダー研修などの資格取得を進める。
 - 地域との交流を深め施設内でのクラブ活動や地域に外出する機会を設けご利用者様のニーズに合わせた地域との関係構築を図る。

ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善

ADLの評価を適切に行い退所時期の見極めを行い、次の入所を適切にコントロールする。
 - 経営分析と戦略策定

- 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
- 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
- サービスの質
 - 趣味の充実を図る
 - レク活動の活性化（映画鑑賞会、お茶会）、サークル活動の実施（手芸など）を行う。
- 主な指標 *2024年度：2025年3月の見込値を含む
 - 一般

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	94.2%	100%（+5.8%）
単価（人・日）	7,299円	7,663円（+364円）

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 満床を目標
 - 待機者の確保
 - 2名以上の待機者を確保する
 - 入居者の状態を常に把握し、退所と入所の空白を作らない
 - 包括や居宅との情報の共有
 - その他取り組み
 - 利用者様のご意見・ご要望を伺うため、年2回（3月・9月）に懇親会を開き、ご家族とのコミュニケーションも大切にしながらニーズの調整する
 - クラブ活動、サークル活動の積極的に参加できるように働きかける

大谷口地域包括センター（地域包括）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 収支バランスを踏まえて職員数を精査する。
包括人員は7名体制を基準とし、収支バランスを考慮した経営を行う。
 - 直営ケースと委託ケースの割合を60：40を目標とし、直営・委託件数管理の「見える化」、担当の偏りが出ないように、新規担当者をミーティングにて決定していく。
 - サービスの質
 - 近隣住民や居宅事業所、医療現場から信頼されるために、個々のスキルアップ（問題解決能力・事業内容の深識等）を図る。
 - 事例検討や研修参加等、自己研鑽の機会を増やす。
 - 職員各自のスキルを把握し、体系的な研修計画を立て実施する
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 事例検討や研修参加等、自己研鑽の機会を増やす。

- 職員各自のスキルを把握し、体系的な研修計画を立て実施する。
- 包括の事業を理解し、包括全職員が対応できるように区主催の研修に参加する。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
ケアプラン数	3,545名	3,652名（+107名）
平均要介護度	—	—
単価（人・月）	5,180円	5,196円（+16円）

● 実現するための取り組み

○ 登録者数

- 地域の人口動態は昨年とほぼ同様であるが新規の相談件数は年々増加しており、ケアプラン数は増えると予測する。新規相談から新規利用に繋げ、包括での担当件数を増やす。
- 包括の事業に参加した一般高齢者から、サービス利用が必要な方々を発見し、サービスに繋げていく。
- 地域のサロン活動や住民主体型のサービスに顔を出し、主催者、利用者との関係性を構築し、サービスに繋げていく。

○ 委託件数

- 近隣の居宅事業所の閉鎖や委託ができない状況がある。年間目標に挙げている様に、直営件数を増やし、目標値を意識しながら、毎月の委託件数を管理し、包括で担当することで収益を増やしていく。

○ その他取り組み

- 民生委員及び町会をはじめとする地域の関係機関との連携強化に向けて顔の見える関係を構築する。
- 包括次年度計画に基づき、各会議の開催を実施。
- 予防事業の活発化。
- 包括事業を適切に運営し、区からの事業評価を高めることで、次年度の委託費用の増大を図る
- 住民主体型サービスの新規開設の後方支援ができるよう、開催日の見学や主催者との意見交換を行っていく。

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名 ショート-18名】

高齢者事業

ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名 ショート-18名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 特養は98.6%、ショートステイは95.5%を必達目標とする。
 - 申込後、区からリストが戻り次第、入所判定までを1週間以内に実施する。
 - 新規協力医療機関、地域医療連携室との連携強化を図り、スムーズな入退所の仕組みを構築し最適なベッドコントロールを行う。
 - SNS等を活用した外部発信力及び営業ツールの強化を図り、効率的な営業活動から入所申込及びショートステイのリピート利用件数の増加へ繋げる。
 - 日勤帯の看護体制の安定化及び低栄養リスクを未然に防ぐ取り組みにより、入院者数の減少に繋げる。
 - 経営分析と戦略策定
 - 事業計画における収支状況の進捗を毎月確認し、各部署役職者と共有する。
 - 定期的に各部署からの課題を抽出し、稼働や支出状況の改善策を検討し策定、実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域行事への参加を積極的に推進し、自治会との合同防災訓練、地域向けの介護教室主催等、地域との繋がりをより強固なものにすべく活動を継続する。
 - 発災時に福祉避難所として地域貢献できる体制づくりのため、訓練計画を立案し、近隣自治会参加のもと実行していく。また区役所担当部署と連携し災害時物品等の増設を進める。
 - サービスの質
 - 介護サービスの質の評価と科学的介護の取組推進をより強化する（LIFE）
 - 各部署の職員配置を安定させ、グループ理念に沿った取り組みをより強く打ち出し、多職種協働原理に支えられたサービス提供体制の強化につなげることでより利用者のQOL向上を実現する。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対する実践に即した体験型研修への参加をサポートする

- 外部研修への積極的参加
- 介護職員初任者研修の受講支援制度、実務者研修の自治体助成金の活用等
- 無資格者への認知症介護基礎研修受講
- 各種マニュアル類の改良、周知徹底
- 産業医、衛生管理者と連携し、安全衛生委員会の活動を通じて各種ハラスメントの事例から学びを深め、必要に応じてメンタルヘルス対策を推進する。また部署ごとの時間外労働を注視し、業務負荷の偏りのないように施設運営を進める。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

○ 入所

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	98.5%	98.6% (+0.1%)
平均要介護度	4.2	4.2 (±0)
単価 (人・日)	15,850円	15,990円 (+140円)

○ ショート

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	91.3%	95.5% (+4.2%)
平均要介護度	3.4	3.4 (±0)
単価 (人・日)	15,950円	16,410円 (+460円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

■ 入院者数の減少

- 介護課、医務課、栄養課が連携し低栄養リスクの早期発見、早期改善につなげる取り組みを継続し、入院者数の減少に努める。
- 日勤帯の看護師配置の安定を図り、利用者の体調管理体制の強化へと繋げる。

■ 営業活動強化

- 営業活動の強化目標として毎月40件以上の営業件数を目標とする。
- SNS等を活用した営業ツールの強化を進め、外部発信力を高める。

■ ショートステイ運営の質の向上

- 介護職員、生活相談員、送迎運転手等が接遇に関して相互に確認し

合える関係性を構築し、利用者に安心してご利用いただける体制を整え、リピート率向上へ繋げる。

- 待機者の確保
 - 満床時においては常時10名の待機を確保する。
- 平均要介護度
 - 認知機能低下やBPSDの方の受け入れも積極的に進めていく。
- 加算について
 - 経口維持加算Iの算定 目標20名
- その他取り組み
 - 地域との交流
 - 自治会、近隣住民や地域包括支援センター等と連携してイベント、防災訓練、介護教室等を実施する。
 - BCP見直しにより、防災対策の強化
 - 利用者の生命と支援の維持、職員の生命、地域貢献を目的に更新
 - 他事業所の好事例も取り入れながら防災委員会を中心に訓練計画を作成、全部署職員にて実行する
 - 施設行事委員会
 - 利用者のQOL向上に向けてひとりでも多くの利用者・家族に楽しんでいただける季節行事・レクリエーションを自治会やボランティアの方々にもご協力いただきながら実施し充実を図る。
 - 敷地内に造設した農園を充実させ、積極的に利用者にも参加していただきながら季節の野菜・果物・花等を育て収穫し、同時に地域の方々への開放も強化する。

2025年 3月18日

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名 ショート-20名】

高齢者事業

ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名 ショート-20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の目標
 - 特養100%・ショート90.9%を年間平均の必達目標とする。
 - 継続的な営業活動により、入所・短期入所生活介護ともに相談・申し込み件数を増やします
 - 近隣病院や居宅介護支援事業所との関係構築ができてきたので、さらなる連携を図ります
 - 入所・短期入所生活介護ともに相談・依頼があれば迅速に対応し、受入体制を整えます
 - 申込み・相談があればすぐに対応を意識づけて実施を継続します
 - 協力医療機関や近隣病院との地域連携との関係作りを図りスムーズな入退所の仕組みを構築します
 - ベッドコントロールに携わる職員の連携を図るため毎日のミーティングを実施します
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を把握し適正な運営を行います
 - 各職種の適切な人員配置を把握し、過剰な人員配置にならないように配置調整を行います
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行します
 - 定期的に運営会議にて役職者と情報共有を図るとともに改善案を検討します
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施します
 - 地域との交流を図り関係性の構築を図ります
 - 神戸大学附属中学校・渦が森幼稚園・渦が森小学校等と連携し関係構築を図ります
 - 施設で企画する物販行事等を地域に発信し、地域の方々に施設に来ていただきます
 - 自治体と合同での福祉避難訓練の実施します
 - 事業所、法人として東灘区の地域に根差した福祉サービスの提供を継続していきます
 - 施設内の取り組みをInstagramやHP、広報誌を活用し周知します

- 地域コミュニティと連携し様々な活動を推進します
 - 地域行事（清掃活動・だんじり祭り）への参加します
- 地域の自治体（山田地域）に出向き、介護予防教室を開催します
- 地域のボランティアの受入れを実施します
 - 神戸シニアボランティア・神戸社会福祉協議会のボランティア等の受け入れを行います
- サービスの質の向上
 - 看取り介護の推進し、最後までその人らしさを支える介護を行います
 - 利用者最優先で、ケアホーム住吉の理念でもある笑顔で気持ちのいい挨拶を心がける。また職員の接遇面を良くするために研修や指導体制を構築します
 - 個々の技術面のみならずチームとして一定基準以上のサービスを提供する体制を確立します
- 人材確保
 - 介護職員を6名採用し、派遣職員の利用を終了します
 - 採用活動を継続し職員採用を図ります
 - 採用に関して派遣職員で接遇、介護技術等のいい人材については、キャリアアップ助成金を活用し常勤転換を実施します
- 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 外部研修への積極的参加と資格取得の支援します
 - 無資格者への認知症基礎研修の受講を推進します
 - 入職1年以内に完了します
 - 介護職員の喀痰吸引等研修の受講を推進します
 - 認知症介護研修の受講を推進します
 - 認知症実践、リーダー研修等の研修を受講します
 - 実践に即した体験型研修の実施します
 - 体験型の研修を経験し様々な取り組みを振り返り、研修を改善させ職員の知識・意識の向上を図ります
 - 感染症・身体拘束・災害等々
 - 接遇マナーの向上
 - 接遇研修を実施し、ひとりひとりの意識づけと職員間での注意喚起できる体制を構築します
 - 新入職員（特に介護未経験者）に対するOJT研修体系の確立します
 - ユニットリーダー、フロアリーダーを確立し組織として職員指導を進めます
 - 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施します

- マニュアル類の整備、周知の徹底します
 - 委員会・介護手法・感染症対策・看取り・事故防止等を整備等のマニュアルと指針について委員会を中心に適宜見直しを実施します
- 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備します
- 送迎対応の改善
 - 故障が多く修理に出すことがとても多く運行に支障をきたしていたため、マイクロバス2台をリース契約し現在のバスと入れ替えを行います
 - 入れ替えが完了したマイクロバス2台の売却処分を行います

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

○ 入所

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	100.7%	100% (▲0.7%)
平均要介護度	3.6	3.6 (±0)
単価 (人・日)	15,617円	15,632円 (+15円)

○ ショート

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	76.7%	90.9% (+14.2%)
平均要介護度	3.4	3.6 (+0.2)
単価 (人・日)	15,747円	15,884円 (+137円)

● 実現するための取り組み

○ 特養稼働率

- 目標達成に向けた具体的な方策
 - 入所申込件数を増やすために、毎月の営業を40件以上実施します
 - 入所判定委員会は随時実施し、入所待機者は常時5名を待機します
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築するとともに入所対応を継続します
 - 管理者、相談員、ケアマネと毎日のミーティングを実施し、稼働に関する現状把握及び対応を行います

- 平均介護度
 - 今年度目標：3.6
 - 特養の入所要件の要介護3以上となっているが、基本的に介護度が高い方（要介護4・5）を優先的に受け入れを実施します
- 加算について
 - 配置医師緊急時対応加算の算定
 - ココロネ住吉と連携し、入所者の状態悪化の際に早期対応を行います
 - 看取り介護加算（I）の算定に変更
 - 365日24時間、看取りの対応を実施するとともに、ココロネ住吉と連携し配置医師緊急時対応加算を算定することで、看取り介護加算（II）から（I）に変更します
 - 日常生活継続支援加算の算定継続
 - 日常生活継続支援加算の算定継続できるように、新規入所者にかかる算定根拠を理解し進めます
 - 算定を継続できるよう要介護度4,5の方の受入れを優先的に実施します
 - 要介護度の割合で要件を満たせない場合、日常生活自立度Ⅲ以上の割合での算定も同時に確認します
 - 排せつ支援加算の算定継続
 - 入所時等に排泄状況の評価等を実施し多職種連携を図ります
 - 安全対策体制加算の算定継続
 - 事故防止委員会の委員長及び委員会職員に算定に必要なリスクマネジメント研修を受講します
 - 夜間職員配置加算Ⅲ及びⅣの算定継続
 - 毎日、夜勤看護師の配置もしくは喀痰吸引等の実施ができる介護職員を配置します
 - 喀痰吸引等の介護職員に指導できるよう、看護師が必要な研修を受講します
 - LIFEを活用した加算の算定継続
 - LIFEへの登録と厚労省に提出が必要なデータを「ほのぼの」で記録管理し加算算定を進めます
 - 協力医療機関連携加算の算定
 - 協力医療機関と定期的な会議を開催し入所者の現病歴等の情報共有を行います

- ショート稼働率
 - 目標達成に向けた具体的な方策
 - ロングショート利用者 10名確保を目標にします
 - 入所待機者をロングショート待機で案内し、LS利用者を確保します
 - 緊急ショートの受け入れ
 - 緊急ショートの依頼は基本的に受け入れます
 - 利用者様の満足度を高める
 - 利用者ニーズの高い、リハビリ・口腔ケアを専門職種が定期的に実施します
 - 毎月・毎日のレクリエーションを計画し実施します
- 加算算定
 - 看護体制加算Ⅲ及びⅣの算定継続
 - 中重度受入要件の条件を達成します
 - 要介護3以上の入所待機者を一定数以上受入れます
 - 夜間職員配置加算Ⅲ及びⅣの算定継続
 - 毎日、夜勤看護師の配置もしくは喀痰吸引等の実施ができる介護職員を配置します
 - 喀痰吸引等の介護職員に指導できるよう、看護師が必要な研修を受講します
 - サービス提供体制強化加算（Ⅰ）の算定
 - 介護福祉士の割合（80%）以上になるように職員配置を実施します
 - 口腔連携強化加算の算定
 - 利用者の口腔衛生状態及び口腔機能の評価を行い、歯科医療機関及び介護支援専門員への情報共有を行います

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

- 事業計画の概要

- 経営

- 2025年度稼働率を96.5%目標とする。
- 協力医療機関や関係機関との連携を強化し、情報共有を高め入退居を円滑に行う。
- 重度者の入居受け入れ対応ができるよう協力医療機関・訪問看護ステーションとの24時間の連携を行う。
- 経費の削減・節水・節電の為に、職員一人一人が無駄を無くすよう徹底する。

- サービスの質

- 入居者様・ご家族様の思いや願いを取り入れた個別ケアを実施していく。
- 感染対策を考えた集団でのレクリエーションや個別レクリエーション・施設外の行事の充実を図る。
- 入居者様・ご家族様からの相談や苦情を職員で話し合い、迅速・丁寧な対応を行う。
- 職員自身の健康管理やストレスケアを促進し働きやすい環境を整える。

- 人材育成・職場環境の整備

- 無資格者への認知症基礎研修の受講・資格取得への支援。
- e-ラーニングを使用した研修。
- 外部研修やWeB会議を積極的に利用し研修への参加を行う。
- 2階・3階職員同士が話し合える意見交換の場を作る。
- 若手職員が実践的な知識やスキルを身につける為に経験豊富な職員がサポートを行う。

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	96.0%	96.5% (+0.5%)
平均要介護度	2.7	2.7 (±0)
単価 (人・日)	13,118円	13,332円 (+214円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 空室を失くすため定期的に協力機関の病院・地域連携室のケアマ

ネ・入居待ちのご家族様と定期的に連絡を取り退居から新規入居までの期間の短縮を図り空室期間を減らす。

- 営業活動を積極的に行い待機者の増加に繋げる。
- ホームページを定期的に更新し情報を発信する事でサービスを必要としている方に関心を持っていただく。

■ 平均要介護度

- 要介護度の高い方も安心して入居できる体制を作り積極的に受け入れる。
- 状態に応じて介護度の見直し区分変更を申請する。

■ 加算について

- 生活機能向上連携加算IIの加算人数を増やす。
- 栄養管理体制加算の算定継続。
- 協力医療機関連携加算の算定継続。
協力医療機関との実効性のある連携体制を構築する。
- 医療連携体制加算I（ハ）の算定継続。
- 科学的介護推進体制加算（利用者様のデータの提出とフィードバック情報を活用していく）の算定継続。
- 高齢者施設等感染対策向上加算（I）の算定継続。
- サービス提供体制強化加算（I）の維持。

■ その他取り組み

- 感染対策を徹底したうえで、積極的に地域イベントへの参加・交流に取り組む。
- 入居者様のご家族様に面会を行っていただく。また、忙しくて来所する事が難しい家族様や感染症の流行時にはオンラインの面会の活用や手紙・電話での連絡を行う。
- ボランティアの受け入れ・外出支援等の取組を再開している。入居者様が地域との繋がりを持てるよう継続して行っていく。
- 利用者様の興味や趣味に合わせた活動（絵画、音楽、手芸など）を提供し、自己表現の機会を増やしていく。

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

- 事業計画の概要

- 経営

- 稼働率、89.0%を目標とする。
 - 登録者数、58名を目標に営業活動を行っていく。
 - 必要なものを見直し、無駄を省く等職員が経費削減(節水や節電)を意識する。
 - グループ内の連携を行い、法人や各事業所に運営状況等が相談できる。

- サービスの質

- 利用者様・ご家族様のニーズを把握し、自立支援・相談・介護軽減に努める。
- 中重度者の受け入れができる環境づくり・職員の知識向上・医療福祉の連携が取れるよう外部との連携強化を行う（協力医療機関等への見学に行く）。
- 地域の様々な活動（地域防災、町内会主催の研修等）に積極的に参加し、地域住民との交流を行っていく。

- 人材育成、職場環境の整備

- e-ラーニングを使用した勉強会・外部の研修（Web）に参加
- 無資格者への認知症基礎研修の受講・資格取得への支援。
- 随時、業務の改善や効率化を考えていく。
- 体調不良時に休むことが出来る、気づいたことを素直に話し合える等、働きやすい環境や風通しの良い関係づくりを行う。

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	82.0%	89.0% (+7.0%)
平均要介護度	1.6	1.6 (±0)
単価（人・日）	8,071円	8,105円 (+34円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 居宅訪問の回数を増やしてケアマネとの連携強化（情報提供や情報収集を行う）を図ることで、紹介していただきやすい環境を作っていく。
- 利用者様からの紹介者を体験・新規利用に結び付けていく。
- 地域の町内会や民生委員等に広報活動を行い、地域の利用者を増やす。

- 利用者様の状態変化やご家族様の声に合わせて、利用曜日の追加等の提案をしていく。
- 広報誌やホームページを定期的に更新し当デイサービスの魅力を発信していく。（広報誌やホームページには当事業所における自立支援に向けた取り組みを継続的に取り入れていく）
- 平均要介護度
 - 中重度者の受け入れを積極的に行い、平均要介護度を上げていく。
- 加算について
 - 個別機能訓練加算I（□）加算を落とさないよう、看護師も機能訓練指導員として業務にあたる。
 - サービス提供体制強化加算I（介護福祉士の割合70%以上を保持）
 - 科学的介護推進体制加算（利用者様のデータの提出とフィードバック情報を活用していく）算定継続
 - 入浴介助加算IIの算定件数を維持し、そして増やしていく。
 - ADL維持等加算（算定継続/データの提出の継続）
- その他取り組み
 - 引きこもりになっている方が、安心して利用できる感染対策の徹底した施設を目指し、利用者様を増やしていく。
 - ボランティア・外出支援・地域の文化祭への参加等を再開している。利用者様の社会的孤立を防ぎ、地域との繋がりを保てるよう継続する。
 - 利用者様の自立支援に向けた取り組みを充実させていけるよう常に職員同士での話し合いの場を持つ。
 - 近くの道路等、地域の清掃活動を行うことで社会貢献に繋げる。

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

八万小規模多機能センター【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 2025年度の目標は高く、稼働率97.0%を目指す。
 - 協力病院の地域連携室や地域の居宅介護支援事業所との連携を図り、1日でも空室が減らせるように迅速な対応を行いたい。
 - 職員全員が、小さな気付きで日々の無駄をなくし、光熱費削減や物を大事に扱い、経費の削減につなげたい。
 - サービスの質
 - 家族様が面会に来られた際、日頃の生活状況などの報告をお伝えしながら、現在の様子を見て頂く。家族様にご要望などお聞きしたり、会話をすることで信頼関係を築き、家族様の協力も頂きながら、その人らしい安心した生活が送れるようなサービスの提供を行う。
 - 感染症対策を十分行い、入居者様の体調管理を行いつつ、毎日美味しく食事を召し上がって頂き、お元気で楽しみのある生活が送れるようサービスの提供を行う。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 新しく入職された職員数名の内、無資格の職員も居る為、基礎研修の受講をして頂く。さらにケアマネなどの資格習得の支援を行い、介護の質の向上を目指す。
 - グループ外の研修受講に参加したり、敷地内の勉強会も継続して行う。
 - 新しい職員やパートさんも居るので、1Fと3Fの職員同士の交流を深められるような職場環境の整備を行う。
- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	91.9%	97.0% (+5.1%)
平均要介護度	2.5	2.6 (+0.1)
単価（人・日）	13,069円	13,137円 (+68円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 協力病院の地域連携室に施設より入院されている方の状況や退院予定の確認や、退院後施設の入所を検討している方が居ないか等、随

時情報収集を行い、連携の強化を図る。

- グループ以外の居宅介護支援事業所との繋がりを作り、定期的な連携にて信頼関係を深める。

■ 平均要介護度

- 要介護度の高い方の受入を積極的に行う。
- 状態に応じて、更新を待たずに区分変更を行う。

■ 加算について

- 生活機能向上連携加算の対象となる方を10名より少なくならないよう努める。
- サービス提供体制強化加算（I）算定継続
 - 勤続年数10年以上の介護福祉士は49.6%と少し減少したが、全体の介護福祉士の割合が85.8%と昨年よりさらに増加している。

■ その他取り組み

- 外部の方や、近隣の方に施設の事を知って頂けるようホームページを定期的に更新し、施設の事を知って頂く。
- 今年も家族会の開催を行い、意見交換などの話し合いの場を持ち、家族様同士の交流を深めて頂く。
- 感染症の少ない時期には出来るだけ外出の機会を持ち、季節を身体で感じて頂きたい。そして、入居者様に普段とは違う喜びを感じて頂きつつ気分転換をして頂きたいと思う。

八万小規模多機能センター【登録定員：29名】

● 事業計画の概要

○ 経営

■ 稼働率の安定

- 常に登録定員が28名以上の稼働率を保てるよう、地域包括支援センターや病院地域連携室、居宅支援事業所と顔なじみの関係を作りながら連携を深めていく。

■ 無駄を無くす

- こまめな節電と節水、消耗品の節約を行い無駄を無くしていく。

○ サービスの質

- 地域交流等の機会を増やしていき、地域の中で安心して日常生活が送れるように支援を行う。
- 一人一人に寄り添った介護を行い、介護の知識やスキルを磨き細やかな点に気づけるように心がける。
- 利用者様の状態やご希望に応じた「通い」「訪問」「泊まり」を組み合わせ

せ24時間365日包括的にサービスの提供を行う。

○ 人材育成、職場環境の整備

- 職員一人一人が必要なスキルアップを図り、勉強会や研修会受講に参加する。
- 職員同士が協力し合える環境づくりをする。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
登録者数	27.9名	28名 (+0.1名)
平均要介護度	1.8	1.8 (±0)
単価(人・月)	206,756円	208,125円 (+1,369円)

● 実現するための取り組み

○ 登録者数

- 利用者のサービスのニーズの把握をして、通い・訪問・泊りのサービスを組み合わせながら在宅生活を継続させていく

○ 平均要介護度

- 積極的に要介護3以上の利用者の方を受け入れていく。
- 利用者の方の介護度が適正であるか確認し、必要な時は区分変更申請を行っていく

○ 加算について

- 訪問体制強化加算：月200回以上の訪問を行い、1,000単位/月を落とさないようにする。
- サービス提供体制強化加算（I）：介護福祉士の割合70%以上を確保し、引き続き介護福祉士受験資格のある職員が資格取得できるようバックアップをしていく。
- 総合マネジメント体制強化加算（II）：より地域に開かれた施設となるよう地域の中で利用者を支える取り組みを継続していく。
- 看護職員配置加算（III）：看護職員を常勤換算数1配置が継続できるように人員配置を行う。

○ 営業活動

- 病院の医療連携室、居宅介護支援事業所、有料老人ホームなどとの連携を密にし、地域の文化祭や地域活動に参加しながら小規模のサービスの特性や利便性などをアピールしていく。

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

那賀町驚敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

高齢者事業

那賀町驚敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

- 事業計画の概要

- 経営

- 低いながらも達成できていない70%に乗せたいと考えている。そのために、営業面でも新規利用者の獲得につながるような工夫をしていく。地域交流の機会も増やしていきデイサービスの取り組み内容を知ってもらう。

- サービスの質

- ミーティングや申し送りにて現在の利用者の生活環境を把握し、残存機能の低下防止ADLの向上と自立化を目指していく。
- 利用者目線で考えデイへ来る楽しさを作る。
- 地域の方と一緒にできるような取り組みを考える。
- 交流スペースを活用しワークショップなどもしていく。

- 人材育成、職場環境の整備

- 勉強会や訓練による職員のスキルアップ
- 仕事と家庭の両立がしやすいよう、働きやすい職場環境作り
- 相談しやすい環境作り

- 改修工事

- 屋根雨漏りの修理（修理箇所によるが約20～30万）

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	60.0%	67.5%（+7.5%）
平均要介護度	1.8	1.5（▲0.3）
単価（人・日）	7,971円	7,872円（▲99円）

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 総合事業割合増加見込みのため、目標平均介護度、単価が低くなる予想。その代わり、総合事業の方たちからの友達紹介や口コミは強みであり、今後の通所介護利用者増へつなげていく。
- 営業からの体験利用・新規利用者の獲得。今まで接点のないケアマネさんへのアプローチ。
- 地域性を生かし利用者や家族、地域住民からの口コミをしてもらえるよう

なレクレーションやイベントを考えて利用してもらう。

- ホームページやInstagramにて活動内容を知ってもらう。
- 営業目標毎月25件、他職員も協力し目標達成する。

○ 平均要介護度

- 介護度が高い方でも、在宅での生活が継続できるよう積極的に利用してもらい、利用の増回を提案していく。

○ 加算について

- サービス提供体制強化加算（I）を引き続き算定可能
- 個別機能訓練Iイ・ロ、IIは引き続き算定、利用人数を増やしていき、新規利用者には必要性をアピールし利用してもらう。
- 今年度はADL維持加算IIが算定できる予定。

○ その他取組

- 外出行事など利用者さんに楽しんでいただけるようなイベントを増やし、活性化につなげる。
- 外出先でも地域の方と繋がれるような企画を考える。（呼んでもらう等）
- 利用者さんも職員も心待ちにしているボランティア様の来所。
- 地元那賀高校との交流。（エシカル服活、体育祭などへ参加）
- 地域の方（地元農家さんや隣のこども園）とのつながりも大切にして一緒にできるイベントを考える。
- 毎月の行事やイベントもデイ通信やホームページ・Instagramを活用し家族様や多くの方に知ってもらい一人でも多くの方に利用していただけるよう取り組み、色々な方法で驚敷デイを知ってもらえるようにアピールをしていく。
- 利用者の得意分野を生かし、作品づくりや、利用時にやりがいとなることを増やしていく。
- 利用者がやってみたいと思うことをやってもらう。
- お買い物支援の充実。（移動販売車来所や希望の方はお店へ）

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

平成在宅介護支援センター平田（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 2025年度は稼働率をキープさせるために体験者・新規利用者の獲得を口コミ宣伝を利用し、現利用者からの宣伝力を利用する
 - 営業実績は買う実に25件以上回り、月始めと月中で相談員と分けて営業に行き、広報誌を利用して印象付ける
 - 今年度より祝日営業をはじめめることをアピールし、収益を上げる
 - サービスの質
 - サービス提供するフロアをゆったりと過ごしていただけるようにスペースを分けて過ごしていただく
 - 各利用者の能力に応じた支援を行い、やってあげる介護ではなくできることを見出し一緒に取り組みながら、在宅生活が継続できるよう職員の介助方法も変えてサービス提供する
 - 年間行事を特別イベントとして開催し特別感を出す
 - 余暇時間の充実を図る
 - 物療の提供
 - ウォーターベット型マッサージ器
 - 低周波治療器
 - Dr.メドマー
 - 足浴
 - カラオケの提供
 - パズル製作
 - 負荷運動器具の提供
 - ロコチューブやハンドグリップ
 - 上下肢マシーン
 - 階段昇降・平行棒
 - 創作活動の提供
 - フロアを彩る季節の飾り作りを手伝っていただく
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 生活相談員同等の介護職員の育成
 - 研修の参加
 - 他事業所とのやり取りによる接遇面
 - 月に1回職員会議を行い業務内容の見直し等話し合い、時間外労働をなくす

- その他

- 地域住民の安心と介護予防の拠点としても活動していけるように居宅と協力して相談対応に取り組む

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	91.7%	91.8% (+0.1%)
平均要介護度	1.7	1.7 (±0)
単価 (人・日)	8,550円	8,620円 (+70円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 前年度の平均稼働率を下回らないよう利用日が休みになればマイナスにならないように振替利用を確実に作る
- 年間行事イベントへの追加利用の声掛け
- 今年度より祝日営業を始め稼働日数が増えるため稼働率はやや下がるが90%以上を目標に全職員に周知する

- 加算について

- 2024年2月より「モフトレ」導入に伴い、個別機能訓練算定者を増やし個別機能訓練加算（I-ロ）76単位、（II）20単位の算定率を上げる

- その他取り組み

- 「モフトレ」を使用したアプリのプログラムに沿ったトレーニングで運動結果を記録しレポートにして利用者にお渡しし、成果の見える化を図ることでアピールポイントに繋げる
- 物理療法や余暇の時間は利用者自身に選択してもらい、自主性を尊重することを第一に考えるよう自立支援介護を行う
- YouTubeを使用しての効果的な集団体操の実施
- 毎月のイベントを充実させる
 - 季節感のあるイベント
 - 定番のイベント
 - 栄養士による「お菓子教室」
 - 生け花教室
 - スイーツバイキング
 - ビンゴ大会

平成在宅介護支援センター平田（居宅介護支援事業所）

- 事業計画の概要

- 経営

- 利用者の立場に立ち利用者の望む自分らしい生活の実現に向け、介護保険サービスだけでなく地域のあらゆる社会資源を活用し、利用者の自立した生活が実現できるよう支援していく

- サービスの質

- 法人内で行われる内部研修や外部での研修に積極的に参加し職員の資質向上を図る

- 人材育成、職場環境の整備

- 同じグループの居宅介護支援事業所と常に連携を取り、事例検討会や研修会を行う事で多様な視点で対応策を導き、その状況改善に向けて行動できる人材育成をしていく

- 主な指標

*2025年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
ケアプラン数	1,664件	1,728件（+64件）
平均要介護度	1.9	1.9（±0）
単価（人・月）	14,756円	14,694円（▲62円）

- 実現するための取り組み

- 登録者数

- 収益を安定化させるために新規利用者の獲得をしていく

- 平均要介護度

- 身体状態や家族の状況に応じて必要なサービス調整を行いながら可能な限り在宅生活が継続できるよう介護度の見直し等を行っていく

- 加算について

- 入院時、迅速に情報を医療機関に提供できるよう、出来る限りその日のうちに情報提供を行う。また退院時や通院時においても医療機関との連携を図っていく事で加算の取りこぼしがないようにしていく
 - 特定事業所加算Ⅲの算定を引き続き行う

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

平成ホームヘルプステーション黒磯（訪問介護）

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の安定に努める。
 - 営業活動を継続し、圏域の利用者の状態を確認する。
 - 空き状況を持参する。
 - 新規の事業所等へは、パンフレットを持参ケアマネジャーに施設へ来所してもらえようように声掛けを行う。
 - 体験や新規の利用者の送迎時は、事前に訪問した職員が迎えに行くなど安心して利用できるよう配慮する。
 - 祝日の営業を開始し、毎月の稼働日数を安定させる。
 - 節電や節水に心がけ経費削減を行う。
 - 自立支援に力をいれ、在宅生活が継続できる機能の向上ができるように支援する。
 - 体調不良時の早期発見や対応を行い、在宅生活を支援する。
 - ホームページを活用し事業所の取り組みを紹介する。
 - サービスの質
 - 利用者及び家族のニーズを把握し、在宅生活を支援する。
 - 個々の能力・身体状態に合わせたサービスを提供し、自身でできる事を増やし楽しみを持って頂く。
 - 家族の介護負担を軽減出来るように相談・援助を行う。
 - 残存能力が維持できるように支援を行う。
 - できる事を奪わず、デイサービス内でも家と同じ事をしてもらい機能低下の予防に努める。
 - 1人暮らしで準備の難しい方等も、居室内介助等で不安なく利用できるよう支援する。
 - 本人の希望に併せて、利用時間を設定する等の利用に対する不安を解消する。
 - 自宅とは違う表情もご家族様にも見ていただけるように、写真等のプレゼントを行う。
 - 定期的に施設の飾り付けを行い、来所するだけで季節を感じられる飾りつけ等を行う。
 - 利用者にも協力してもらい楽しみを作る。
 - 利用者の受け入れができる体制を整える。
 - 対応方法を周知し、サービスの一定化を図る。

- 主治医や介護支援専門員との連携を図り、サービスの共有を図る。
- 地域の連絡ツールを活用し、多職種との情報共有や連携を図る。
- 職員の技術向上。

○ 人材育成、職場環境の整備

- 毎月の勉強会・職員会議の実施し、職員の知識・技術の向上。
- 定期的な業務内容の見直しを行い、職員の負担軽減や環境整備に努める。
- 職員の身体的な負担軽減が出来るように、介助方法等の研修会の開催。
- 相談しやすい環境を作る。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	69.4%	74.9% (+5.5%)
平均要介護度	1.9	1.8 (▲0.1)
単価 (人・日)	8,684円	8,584円 (▲100円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

- 実人数を定員の2.5倍の登録者数を獲得する。
- 体験から新規への獲得率90%以上とする。
- 独居の方でも安心して利用できるよう、居宅内介助が可能な旨を発信する。

○ 平均要介護度

- 要支援者の割合が増加し、平均要介護度・単価の減収となるが個別機能訓練加算I (□) の算定割合を上げ増収を目指す。

○ 加算について

- 個別機能訓練加算I
 - 算定率の向上を図る
 - 新規時にはすぐに算定出来るように準備する。
 - 現在の利用者の見直しを図る。
- 個別機能訓練加算II
- 口腔・栄養スクリーニング加算 (I) (II)
- 口腔機能向上加算
- 介護職員等処遇改善加算 (I)
- A D L 維持等加算I
 - 令和7年度はA D L 維持等加算がIIからIに変更となる。

- 科学的推進加算
- サービス提供体制強化加算II
- その他取り組み
 - 地域の保育園からの月一回の慰問を継続
 - 職員の子供の訪問等、交流の幅を広げる

平成ホームヘルプステーション黒磯（訪問介護）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 延べ訪問件数月392件を目標とする。
 - 居宅や地域包括への営業。
 - 業務の改善、効率のよいシフトとルート作成に努める。
 - 人員の確保により、利用者の受け入れ体制を強化する。
 - サービスの質
 - 接遇マナーの向上
 - マニュアルの定期的な確認と見直しで、ヘルパーによるサービスのバラツキを無くす。
 - サービス提供前後の情報共有の徹底により、利用者や家族の状況の変化やニーズを把握し、適切なサービス提供を行う。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 月1回のヘルパー研修、個別研修の実施
 - 定期的に個別懇談の機会を設け、ヘルパー個々の状況に配慮したスケジュール作成。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
延べ人数	4,365名	4,711名（+346名）
平均要介護度	2.0	2.0（±0）
単価（人・日）	4,326円	4,148円（▲178円）

- 実現するための取り組み
 - 利用者の確保
 - 質の高いサービス提供に努め、利用者、居宅からの信頼を得る。

- ケアマネージャとの連携を密にし、毎月空き状況を伝える。
 - 施設入所、長期入院の利用者が出た時は、迅速に営業をすすめる。
 - 人員確保と効率の良い訪問スケジュール作成に努め、新規依頼に確実に対応出来る体制を整える。
 - ヘルパー間の情報共有とアセスメントで、利用者の状態変化やニーズを察知し、ケアマネージャにサービス内容変更等の提案を積極的に行い、サービス単価や延べ回数の増加に努める。
- 平均要介護度
- 「身体1」等の短時間のケースが増加傾向のため、延べ人数は増える半面、単価は下がる見込み。その対策として、シフトの見直しにより、移動時間や待機時間の短縮を図る。
 - ターミナルの利用者の依頼なども積極的に受け入れ、ケアマネージャーや訪問看護と連携しながら最後まで安心して在宅生活が送れるよう支援する。
- 加算について
- 特定事業所加算Ⅱの算定
 - 介護職員等処遇改善加算（Ⅰ）

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム鳴門（グループホーム）【定員：18名】

平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】

鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム鳴門（グループホーム）【定員：18名】

- 事業計画の概要

- 経営

- 病院や居宅支援事業所等への営業活動を定期的に行い待機者増加を図る
- 待機者には定期的に連絡を行い、現状把握に務める
- 地域の活動に積極的に参加を行い、他事業所との関係性を深められるように務める
- 経費削減（節電、節水、消耗品管理の徹底）

- サービスの質

- 入居者様や家族様からの意見や要望等に迅速に対応できる職員体制
- 職員の意欲や質の向上
- 業務内容の見直しを定期的を実施することにより、職員の負担軽減を図る

- 人材育成、職場環境の整備

- 職員の知識、技術の向上
- 研修に参加しやすい職場環境の整備
- 職員が働きやすいと感じるような環境、自分の意見を相談しやすい環境の整備

- 改修工事

- LED電球の交換

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	98.0%	98.9%（+0.9%）
平均要介護度	2.8	2.9（+0.1）
単価（人・日）	12,949円	13,050円（+101円）

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 病院や居宅介護支援事業所、待機者との連絡を行い、空床が出た際に早い段階での入所に繋がるように調整する

- 問い合わせの連絡があればすぐに対応を行い、見学実施をするなど待機者確保に繋げていく
- 入居様様の体調変化があれば、早急に協力医療機関へ相談を行い対応していく
- 医療機関に入院された際、施設での受け入れ体制等の情報共有を医療機関にも伝えていく
- 平均要介護度
 - 入居様様の日々の身体状況を確認し、必要な場合には家族様にもお伝えして速やかに区分変更を行う
- 加算について
 - 生活機能向上連携加算（Ⅱ）：算定割合を現在の27%から44%に増やす
 - サービス提供体制強化加算（Ⅰ）：介護福祉士の割合を維持できるように、働きやすく相談しやすい職場環境を作り、長年勤務者の定着、資格取得ができるようサポートを行う
- その他取り組み
 - 季節行事以外の催し物を定期的に行うことができるように企画する
 - 感染対策を継続しながら、ボランティア訪問や家族様との交流を企画する

平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の向上、維持
 - ・ 毎月90%以上、年間93%以上を目標とする。
 - ・ 登録者数を65名まで上げる。
 - ・ 追加希望待機者を確保する。
 - 経費削減
 - サービスの質
 - 人員確保
 - 満足度の向上
 - ・ 生活リハビリを通して役割を持っただき、生活に活気を与えADLの維持、向上、自立を目指す。
 - ・ 外出やイベントなど特別な行事の開催を増やす。
 - ・ 「心」「頭」「身体」が活性するレクリエーションを充実させる。

- 職員の知識向上
 - ・多職種の専門性を生かし、連携を強化する。
 - ・中重度要介護者を積極的に受け入れる。
- 人材育成、職場環境の整備
 - 外部研修やweb研修へ参加する。
 - 定期的に業務の見直しを実施し、職員の負担軽減を図り生産性向上に繋げる。
 - 人員確保により時間外労働をなくし、働きやすい職場環境を作る。
- その他
 - 感染対策に留意しながら、イベントなど行事内容の充実を図る。

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	88.8%	92.6% (+3.8%)
平均要介護度	2.0	2.0 (±0)
単価 (人・日)	8,051円	8,074円 (+23円)

● 実現するための取り組み

- 稼働率
 - 営業(月30件以上)を欠かさず、ケアマネの要望に応える。
 - 居宅介護支援事業所や包括支援センターとの連携を強化する。
 - 体験は活動内容を写真撮影し、ご家族様やケアマネに報告し獲得に繋げる。
 - キャンセルは月前半に振替予定し、必ず予定利用数は獲得する。
 - 鳴門市自立支援ケア会議へ積極的に出席し他の事業所との差別化を図る。
 - 地域活動や行事に参加し貢献する。
- 平均要介護度
 - 重度で短時間利用のニーズが多いため、積極的に受け入れる。
 - ターミナル、インスリン自己注射、胃瘻や導尿、ストーマ管理、褥瘡等医療面が必要な方も要相談で受け入れる。
- 加算について
 - 口腔機能向上加算(I)：ご利用者様の50%に算定できるように増やしていく。

- 生活機能向上連携加算：ご利用者様の40%に算定できるように増やしていく。
- ADL維持等加算(II)：LIFEへのデータ提出を継続し、算定条件を達成する。
- その他取り組み
 - インスタ・ホームページの更新でイベント以外の普段の様子なども掲載し、ご家族様やケアマネへの営業ツールとして活用し、集客に繋げる。
 - 感染対策に留意しながら、外出行事やイベント、ボランティアなどの心が動くレクリエーションを企画する。

鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 利用者の思いや暮らしに合わせた柔軟なサービス提供により在宅生活の継続を可能にし、長期的に安定して利用してもらえるようにする。
 - 引き続き、稼働率を上げる為に病院や地域包括支援センターとの連携を強化し、新規利用者の登録に繋げていけるようにする。
 - 節電、節水など、出来るだけ無駄な出費を抑える。
 - サービスの質
 - 利用者様実情や要望をもとに必要なサービスを見極めながら、小規模の特性を活かした支援を行う。
 - 感染対策を継続し、利用者様に安心してサービスを利用していただけるようにする。
 - 季節の行事や外出行事を通して、日々の暮らしに張り合いや喜びを持って過ごしてもらえるようにする。
 - 活動分野においては、頭と身体をバランス良く動かすレクリエーションを取り入れる。生活リハビリや個々の得意分野に応じて1人1人の力を発揮してもらえるように出来る事を頼んだり、役割を見つけるなど活力を引き出す支援を行う。
 - 定期的に地域ボランティアの受入れなども普段と違ったイベントの日を設け、楽しんでもらえるようにする。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 職員の質の確保、向上に向けて必要な資格取得に向けた支援を行う。
 - 職員の経験や習熟度等に応じて、事業所内外の研修参加の機会を設ける。
 - 職員が個々にやりがいと向上心を持って働ける職場環境を整え、業務の継続に繋げる。

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
登録者数	14.3名	17.5名 (+3.2名)
平均要介護度	2.1	2.3 (+0.2)
単価 (人・月)	206,456円	207,111円 (+655円)

- 実現するための取り組み

- 営業活動

- 併設の有料老人ホームと連携を図り、入居や見学のタイミングでサービスの案内を行い、サービスの利用を積極的に勧めていく。
- 居宅介護支援事業所や病院、地域包括支援センターと継続的に連携を図りながら、相談があった場合にはすぐに対応出来る体制を整える。
- 市内の中心拠点となる医療機関へ定期的に登録状況等の情報を共有し、対象者の受け入れを速やかに出来るようにする。
- 市内医療機関のネットワーク内にて情報を共有していただく。

- 平均要介護度

- 利用者の状態に応じて早めに介護度の見直しを行っていく。
- 介護度2.4以上を目指す為、引き続き介護度3以上の重度な方の積極的な受け入れを行う。

- 加算について

- 生活機能向上連携加算：定期的な評価を行い、確実に算定できるようにする。
- 認知症加算（Ⅲ、Ⅳ）：認知症介護実践リーダー研修の受講をすすめ、今後は更に上の加算の算定を目指す。

- その他取り組み

- ボランティアの受け入れやイベントの参加等の活動を継続して行い、地域の方々との交流を増やすことで、気軽に相談を受けたり、必要機関との連携し、支援に繋げる等、事業所として地域での役割を担うと共にサービスの利用促進に繋げる。
- 鳴門市等が主催する研修への参加を行い、各事業所との関係性を構築する。

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：26名】

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：26名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の向上
 - 年間通して90%以上を目標とする。
 - 登録者数を55名以上を目標とする。
 - 待機枠の確保。要支援者・事業対象者の獲得。
 - 経費削減
 - サービスの質
 - 人員確保
 - 満足度の向上
 - 個々への細かな対応。接遇の質向上。
 - レクリエーションや作業活動の充実
 - 行事や屋外活動、地域との交流などの催しを開催
 - 機能訓練の充実や自立支援の取り組み
 - 多職種や関係事業所との連携強化
 - 相談窓口や苦情受付の強化
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 定期的な研修やWEB研修参加
 - 業務の効率化。職員の負担軽減や環境整備を図る。
 - 職員会議を行い、話しやすい環境を作る。
 - 適正な人員配置により時間外労働をなくし離職率の減少を図る。
 - 改修工事
 - LED照明の設置
 - その他
 - 地域住民との交流

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	89.5%	93.0% (+3.5%)
平均要介護度	2.0	2.0 (±0)
単価 (人・日)	7,968円	7,973円 (+5円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 協力医療機関、居宅介護支援事業所との連携強化
 - 併設施設との連携強化、利用のご提案
 - 営業件数月35件の実施
 - ケアマネへの連絡強化、情報の共有、随時訪問
 - 利用者の口コミを生かした発信や紹介
 - SNSを利用したマーケティング
 - 平均要介護度
 - 認知症の方、医療必要度の高い方への受け入れ体制を整え、専門的なサービスの提供、人員確保、環境整備を図り、要介護度の高い方への受け入れを積極的に実施
 - 重症度の高い短時間利用のニーズがある為、積極的に受入れを実施
 - 平均要介護度は下がるが、要支援者や事業対象者の獲得を図り、登録者数を増加
 - 加算について
 - ADL維持等加算(I)が算定継続できるよう機能訓練の強化
 - 個別機能訓練加算I(口)の算定増加
 - 口腔・栄養スクリーニング加算(I)の対象者の拡充
 - サービス提供体制強化加算(I)の算定へ向けて介護福祉士取得の促進
 - その他取り組み
 - 利用者の満足度向上を目指し、企画やレクリエーションの内容を常に検討し、サービスの質向上となるよう話し合いの場を作る
 - 定期的にサービス内容の検討、見直し、振り返りを行い、地域の中で一番良いと、居宅介護支援事業所や地域の方に口コミが広がるよう目指していく。
 - 利用者の自立支援に向けて取り組みを検討していく
 - 地域との交流や催しを拡充

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

- 事業計画の概要

- 経営

- 稼働率の向上

- 地域連携の強化
- 空室管理の最適化

- 入居期間の延長

- 医療・介護サービスの充実
- 家族との関係強化
- 多職種連携

- 経費削減

- エネルギーコスト削減
- 業務効率化

- サービスの質

- 満足度の向上

- アンケートの実施
- パーソナルケアの充実
- 相談窓口の強化

- 安全対策の強化

- 防災・避難対策の強化
- 感染症対策の徹底

- 人材育成、職場環境の整備

- 人材育成

- 研修の充実

- 働きやすい環境整備

- 定期的なカウンセリング
- シフトの最適化
- メンタルヘルス対策
- 職員間コミュニケーション促進

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	98.4%	98.9%(+0.5%)
単価（人・日）	3,301円	3,432円（+131円）

- 実現するための取り組み
 - 稼働率の向上
 - 病院や居宅、包括との連携を深め、定期的に情報共有を実施
 - 待機者の確保や、入退居日程調整をこまめに行い、空室期間を短縮
 - 入居期間の延長
 - 協力医療機関や、各種介護事業所と連携し、健康管理や環境管理、自立支援を実施
 - 家族との関りを大事にし、入居者の精神的安定を図る
 - 経費削減
 - LED照明、節水シャワーヘッド等省エネ機器導入
 - 現場ヒアリングにより業務マニュアルを整備し、無駄な業務を削減
 - 満足度の向上
 - 入居者・家族向けにアンケートを実施し、フィードバックを即座に反映
 - 多職種、家族と連携し、個別のより細かいニーズに対応
 - 入居者・家族の不安解消のための相談しやすい窓口の設置
 - 安全対策の強化
 - 防災マニュアル、BCPの更新を行い、訓練を実施
 - 感染症マニュアル、BCPの更新を行い、訓練を実施
 - 働きやすい環境の整備
 - 職員の意見を取り入れた業務改善を推進
 - ストレス管理やセルフケア方法の研修を実施

2025年 3月18日

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと東大阪（訪問看護）

高齢者事業

訪問ステーションてとと東大阪（訪問看護）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持・向上
 - 看護目標
 - 稼働率：45～50%
 - 1人当たり平均訪問件数：4～5件/日（80～90件/月）
 - リハビリ目標
 - 稼働率：50～55%
 - 1人当たり平均訪問件数：5～6件/日（100～110件/月）
 - 上記稼働率を目標とした利用者の獲得
 - ※具体的方法は『具体的取組※1』参照
 - 業務効率向上のシステムを構築
 - スケジュール管理に時間を要している状況のため、新たなシステムや方法を導入し、効率化を図る
 - 事業所内での情報共有の徹底と、その速度を上げる
 - 上記により、処理漏れやミスを最小限に抑える
 - ※上記における具体的方法は下記『具体的取組※2』参照
 - サービスの質の向上
 - 訪問スタッフ全員が「全人的」ケアができるようになる
 - 全人的とは
 - 人間を全体的な視点で捉えることを目標とする。
 - 利用者を「病気を持つ存在」として捉えるのではなく、ひとりの人間として多面的に捉える。
 - コメディカルが陥りやすいバイアスを取り除き、気付きを増やす
 - より多角的視点をもって利用者に対応する必要があるため
 - ※具体的方法は『具体的取組※3-I、※3-II』参照
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 人材育成
 - 「全人的」ケアができる訪問看護職員を目指すとともに、どのようなケースでも対応できる体制を整える
 - 知識・技術面だけでなく、思考面での底上げが必要
 - ※具体的方法は『具体的取組※4-I、※4-II』参照
 - 環境整備
 - 劣化部の補修及び改善を実施し、スタッフが業務に集中しやすい環境を整える
 - 更衣室の環境調整
 - 看護物品保管庫の整理・追加

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
延べ人数	15,213名	16,166名（+953名）
平均要介護度	2.5	2.6（+0.1）
単価（人・日）	4,660円	4,728円（+68円）

● 実現するための具体的取り組み

○ 経営

■ ※1 新規利用者の獲得

● 看護管理者含め看護スタッフによる積極的な営業を実施

- 主治医・ケアマネージャーに対し月1回は必ず訪問し、利用者の状態報告実施及び情報共有を図る

■ 報告書・計画書配布も兼ねて実施

- 連携先として信頼を得ることで次の利用者紹介につなげる

■ ※2 業務効率向上のシステムを構築

● スケジュール管理システム（ZEST）を導入（2024年度末に導入済）及び稼働

- 今までの管理方法（スプレッドシート管理）から2025年度開始までにZESTに完全移行予定
- スケジュール管理だけでなく、職員毎の稼働率や傾向の情報を吸い上げ、業務内容の改善につなげる
- 今年度は、ZESTの操作（スケジュール管理機能のみ）について、管理者だけでなく、各スタッフも随時調整が可能にすることで、対応速度向上とともに効率化を図る

● 情報共有の徹底と、その速度を上げる

- 「公明正大」をテーマに情報を開示・共有するシステムを作成・使用するとともに、どのスタッフも情報にアクセスできるようにすることで共有の速度をあげるとともに、業務効率を向上させる

■ ※3-I スタッフ同士による同行訪問を実施（管理者・一般スタッフ関わらず）

- 頻度：随時空き枠を利用
- 同行訪問後は適宜協議・指導を実施し質を向上させるとともに各スタッフの視野を広げる

■ ※3-II 定期的なカンファレンスを実施

- 頻度：月に1～2回実施
- 情報共有及び多角的な視点をもってサービスを実施できる体制をとる

- ※4-I 定期的な面談を実施（継続実施）
 - 方法：社会的マナーや業務内容・目標を盛り込んだ独自のチェックシートを使用
 - 訪問サービス含め、日常の事業所内業務においても、効率向上に向けて1人1人に気付きを促していく
 - 目標の数値を明示し、現状を把握・理解することで次のステップに繋げる
 - 頻度：半期に1回実施
- ※4-II 既存スタッフのニーズを捉える取り組み「ざつだん」を実施 ※継続実施
 - 目的：
 - 上記「面談」ではどうしても畏まる傾向にあるため、気兼ねなく傾聴できる場を設けることで、スタッフの本音を引き出す
 - モチベーションの維持及び確認
 - 些細な問題や疑問を早期に発見＆解決する手段として活用する
 - スタッフの意識改革
 - 各々がメタ視点をもって業務を遂行できるように助言・調整していく
 - 退職者への早期対応
 - 早期に把握することにより、余裕をもって人材確保を実施できる
 - 方法：面談とは別に普段の何気ない悩みや意見を聴取する場を設ける
 - 頻度：管理者）1ヶ月に1回＆適宜
：一般スタッフ）最低2ヶ月に1回
 - その他取り組み
 - 地域貢献できる組織に参加する
 - 昨年度より地域の多職種連携会議に参加
 - Drやケアマネ含め多職種との連携を強化する
 - 看護サービス算定増加に向けた取り組み実施
 - リハビリのみの利用者様へ看護師モニタリングの意義を見出し、本人、ご家族、ケアマネ、主治医に提案し、看護師訪問による算定を強化していく

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと徳島（訪問看護）

ケアプランセンター てとてと徳島（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

訪問ステーションてとと徳島（訪問看護）

- 経営
 - 稼働率の維持、向上
 - 毎月1回は必ず医療機関やケアマネージャーに効率的な営業活動を行い、新規利用者数の獲得に努める。また、良好な信頼関係を築けるよう、地域交流会など積極的に参加を行う
 - スケジュール管理システム（ZEST）を使用し、利用者宅との移動距離が適切かなど、適時スケジュールの見直しを行い、移動時間の効率化を図り、訪問件数の増加に努める
 - ZEST BOARDを利用し、職員ごとの時間の使い方を算出し、非効率的な時間については、原因の考察と改善策を徹底して行っていく
 - 体調不良以外での利用者の休みが発生しないよう、看護、リハビリの質の向上に努める
 - 鳴門市にサテライト拠点を設置し、活動範囲の拡大に努める
 - 経営分析と戦略策定
 - 各職種ごとの収支を算出し、事業所内の会議にて分析し、前月よりも収益を向上できるように改善策を立案する
 - 人材確保に努め、より良い在宅看護を提供し、事業所の評価を向上させ、新たな利用者の獲得を図る
 - 医療、介護、予防の利用者数の全体的なバランスを把握し、最適化を図る
 - グループ内での連携強化
 - 博愛記念病院、徳島平成病院、地域連携室職員と日頃より連携を行い、入院患者の情報収集、退院後の訪問サービスの検討を随時行い、退院後の在宅支援強化に努める。また、デイケアやデイサービスとの併用により、充実したサービスの提供が実施できるように連携を強化する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 連絡協議会への参加など地域医療機関との連携を図り、地域の医療連携ネットワークを構築する。
- サービスの質
 - 各スタッフが定期的にローテーションで講師となり、臨床に活かせるように他スタッフへ講義を行い、それぞれ自己研鑽を図る
 - 精神科訪問看護基本療養費の要件を満たす研修を受けたスタッフ数が増加しており、精神分野での訪問件数の増加も視野にいれ、より広い分野でサービスを提供できるように努める
 - 同職種間だけでなく各職種間でそれぞれの治療法や技術などを実技等で伝達し、知

識や技量の向上に努める

● 人材育成、職場環境の整備

○ 研修の実施

- 月に1度、eラーニング研修にて勉強会を受講
- 月に1度、担当制にて実症例を交えながら症例検討会を開催
- 災害および感染BCPにおける机上および実技訓練
- スタッフが自ら講義を行い、他スタッフへの講習を行う。

○ 上司や同僚に気軽に相談できる環境の構築

○ 中途採用時のミスマッチが発生しないように、志望動機や志望理由、入職後の目標など、実際の仕事内容とずれがないかをしっかりと確認し、よりよい人材の採用を目指す

○ ZEST BOADを使用して、スタッフごとの訪問業務に偏りがいないか定期的に確認を行い、適時調整を行う

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
延べ人数	21,957名	25,408名 (+3,451名)
平均要介護度	2.2	2.2 (±0)
単価 (人・日)	5,659円	5,892円 (+233円)

● 実現するための取り組み

○ 利用者の確保

- 前年度より継続して、神経難病やがん末期、小児の利用者様の積極的な受け入れを行う。また、がん末期の利用者には看護のみでなく、がんリハビリテーションの提供も積極的に行っていく。
- 前年度は精神科訪問看護基本療養費を算定できるリハビリスタッフが不足したが、来年度には3名に増員しており、紹介のあった精神施設への営業を中心に精神科訪問看護の利用者数の増加を目指す。
- サテライト事業所を設置により活動範囲を拡大することで、より多くの他施設、他事業所との交流を深め、利用者数の拡大を図る。
- 訪問看護のみの利用者で、状態悪化により廃用症候群のリスクが高くなる可能性がある場合において、特別指示が交付された期間のリハビリテーションの必要性を主治医とともに検討し、必要に応じて提供を行う。

○ 加算について

- 昨年度は、介護保険において初回加算Iの算定が3名と少なかったため、退院日初日より、環境設定や利用者の状態確認等で、訪問看護の提供を行い、

加算数の増加を目指す。また、医療保険も同様に退院時共同指導、退院支援指導加算の算定数の増加を目指す。

- 利用者の診療情報を取得した上で訪問看護の実施に関する計画的な管理を行い、訪問看護医療DX情報活用加算の取得を目指す。
- その他取り組み
 - 2023年、2024年と利用者数も増加しており、今後も増加していくと見込まれる。そのため、それに対応する看護およびリハビリスタッフ数の増加(中途採用)も積極的に行っていく。

ケアプランセンター てととと徳島（居宅介護支援事業所）

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、向上
 - 職員1名あたり39名(前年度比+1名)の担当数を担保する
 - グループ内に留めず、外部への紹介も行っていくことで、良好な関係性の構築を図り、利用者数の増加を目指す
 - 外部への営業活動を定期的に行う
 - 経営分析と戦略策定
 - 事業所内の会議にて分析し、前月よりも収益を向上できるように改善策を立案する
 - 経理部と連携して毎月の収支の状況を確認し、増減収の理由を分析する
 - グループ内での連携強化
 - 博愛記念病院、徳島平成病院、地域連携室職員と日頃より連携を行い、入院患者の情報収集、退院後の訪問サービスの検討を随時行い、退院後の在宅支援強化に努める。また、デイケアやデイサービスとの併用により、充実したサービスの提供が実施できるように連携を強化する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域ケア会議に参加し、医療、介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める。
 - サービスの質
 - 毎月1回以上は、利用者宅へ訪問し、本人および家族の相談などしっかりと傾聴を行い、家族の負担を考慮しながらケアプランを立てる
 - 介護保険上のサービスだけでなく、それ以外のサービスやインフォーマルなサービスとのネットワークを作り、より利用者にとって快適な暮らしが

出来るように支援を行う

○ 人材育成、職場環境の整備

■ 研修の実施

- 月に1度、グループ内の他居宅事業所とともに症例検討会を開催
- 月に1度、事業所内で勉強会を開催
- 多職種を含めた事例検討会の開催
- 災害および感染BCPにおける机上および実技訓練
- 外部研修会への積極的な参加
- 主任ケアマネの取得

■ 上司や同僚に気軽に相談できる環境の構築

● 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
ケアプラン数	775名	837名 (+62名)
平均要介護度	2.2	2.3 (+0.1)
単価 (人・月)	12,470円	12,517円 (+47円)

● 実現するための取り組み

○ 登録者数の増加

- 後方支援病院（博愛記念病院、徳島平成病院）のみでなく、地域包括支援センターなどの他事業所や総合病院などとの連携を深め、新規獲得数の増加に努める
- 「精神疾患的な症状」「複雑な家族関係」など困難な事例にも対応できるようにスキルアップを目指す。
- 個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより、地域に共通した課題を明確化する

○ 平均要介護度

- 平均要介護度2.2から2.3とし、重度疾患利用者の受け入れを積極的に行う
- 要介護度が高くなるに従い訪問回数の増加にも繋がるため、看護やリハビリとの連携も行いながら、重度疾患利用者にも対応していく

○ 加算について

- 前回と同様に令和9年度より特定事業所加算Aを算定できるよう、主任ケアマネ1名の増員に向けて、引き続き体制を構築していく
- 入院時情報連携加算（I）は前年度5名であった。可能な限り、入院した日のうちに必要な情報提供を行い、加算取得数の増加を目指す。
- 初回加算の算定ができるように、新規利用者数の増加に努める

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

障害者事業

OUCHI CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）【定員：20名】

OUCHI HOME（共同生活援助）【定員：14名】

西新井まちの相談室（特定相談支援事業）

障害者事業

OUCHI CAFE・KITCHEN（就労継続支援B型）【定員：20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 精神障害を持つ方を主な対象とした就労継続支援B型事業所であるが、高次脳機能障害や知的障害の方の受け入れも行っている。利用者個々のニーズに合わせた少ない日数や短時間からの通所設定や、様々なレベルの仕事の提供などを行うことにより、利用者がやりがいや達成感を感じられるような支援を行っている。

また、単に「仕事をする場所」というだけでなく、利用者にとって安心・安全な場所となることを目指し、ステップアップで卒業した利用者や様々な理由で中断せざるを得なかった利用者も含め、気軽に相談することができるよう体制を整えている。

さらに、一般就労を目指す利用者に対しては就労移行支援事業所などの関係機関と連携して目標に向けた支援を行っている。
 - サービスの質の向上
 - 夕礼の実施
 - 毎日、サービス提供時間終了後に夕礼を行い、その日の利用者で気づいたこと、支援の方針などについての共有を行う。
 - 利用者との「面談」の実施
 - 日頃から利用者が気軽に相談できるような関係性を築くとともに、利用者からの相談にはきちんと時間をとって対応するよう引き続き努める。
 - 利用者からの「声」への対応
 - 意見箱の設置や「目標設定シート」の活用を通して、利用者が直接言いにくいことや話することが苦手な利用者の声を拾い上げ、利用者のニーズを把握して日々の支援に反映させる。
 - 利用者の体調チェック
 - 仕事前の朝礼時に体調チェックを行い、その日の体調を利用者自身に発表してもらう。
 - 発表された「元気度」が低い利用者や変動の大きい利用者はとくに気にかけて声掛けを行うなどする。
 - 利用者同士の交流
 - 利用者同士の交流や職員との交流などのために、サービス提供時間終了後にフリータイムを設定している。

- 人材育成、職場環境の整備

- 研修の実施

- 虐待や権利擁護、防災等の法定研修の実施。
 - 社会資源や制度など利用者の支援に必要な知識に関する勉強会の実施。
 - 外部の研修にも積極的に参加できるように、業務のローテーションを行って職員同士がお互いの業務をカバーし合えるようにする。

- 職場環境の改善

- 定期的に職員面談を行い、日頃の支援で困っていること、やってみたいことなどの聞き取りをする。
 - 定期的に運営会議を開催し、職場での困りごとや課題の抽出とその解決を図っていく。

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	93.7%	95.0% (+1.3%)
単価（人・日）	13,320円	12,180円（▲1,140円）

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 利用者の通所の安定化

- 利用者の休みの軽減
 - 休みが続く利用者には状況に応じて電話連絡をし、休みが長引かないよう働きかけをする。
 - 連絡なく休んだ利用者には状況に応じてこちらから電話連絡をして状態を把握。悩みごとなどある場合は傾聴し、不安をできるだけ取り除けるよう支援していく。
 - 元気度チェックや連絡ノートなどの日頃の支援を通じて利用者の不調の兆候等を把握し、不調時には早期に介入することで長引かないようにする。
 - 意見箱や「目標設定シート」で得た利用者の「やりたいこと」を可能な限り実現していくことで、通所のモチベーションを上げる。
 - 利用者への支援の充実
 - 職員の資質向上

- 精神障害の特徴や関わり方、障害者の権利擁護・虐待防止などについての施設内研修を行う。また、施設内だけではなく東京都主催を含む外部の研修会等にも積極的に参加し、それぞれの職員が自身の資質向上に努める。
 - CAFEとKITCHENで職員のローテーションを実施し、一定のサービス提供の質を担保できるよう備える。
- 職員間の情報共有
 - 利用者の個別支援計画の内容について共有するミーティングを定期的に行う。
- 利用者の利用日数の拡大
 - 利用者との定期的な面談を通して作業や心身面の評価を行い、利用時間や通所日の拡大を図る。
- 就労支援
 - 就労への移行支援
 - 2024年度に、就労移行支援体制加算の算定要件（就労継続期間が6か月に達した者）を満たす利用者がいなかったため、2025年度に当該加算を算定することができなくなり、単価低下の要因となった。
 - OUCHIの仕事を通して利用者の「やってみたい」を実現し、自己肯定感の向上や自信の回復を目指していき、利用者が就労を選択肢の一つとして選ぶことができるようになる土台作りを行っていく。
 - 一般就労や障害者雇用などのステップアップを目指す利用者には、ハローワークや就労移行支援事業所などの支援機関の情報提供を行い、必要に応じて同行する。
 - OUCHIの利用終了後も困ったことがあったら話を聞いたり相談にのったりできるようにし、就労定着のサポートを行う。
 - 就労移行支援事業所などと連携し、就労を目指す利用者の支援を行っていく。
- 大内病院との連携
 - 訪問看護ステーションやデイケアなどの在宅部門や大内病院外来などと協力して包括的な支援を行い、利用者の生活面を支えていく。
- 地域との交流
 - 地域のフォーマル、インフォーマルな機関とつながり、利用者と地域の人たちが交流する機会を作る。
 - 足立区内で行われる行事への参加。

- 地域の方と交流できるようなイベントの実施。
 - 昨年度から開始した「みんなでごはん」という地域食堂を継続し、地域の方々に広く利用していただくことで地域に開かれた施設であることを知っていただくとともに、利用者にも地域に貢献しているという思いを感じてもらう。
- 就労継続支援事業の拡充
 - 平均工賃の維持
 - デザートの提供
 - 大内病院精神科デイケアおよび認知症デイケア向けの週5日のデザート提供を継続し、安定した工賃収入を確保する。
 - 商品の生産量の安定化
 - お中元やお歳暮を継続。それらを見越して安定した生産ができるよう、年間の生産計画を立てていく。
 - できるだけ多くのニーズに応えるために業務の効率化や利用者のスキルアップ支援を同時並行で行い、生産量の安定化を図る。
 - 商品の販路拡大・新商品の開発
 - 現在の取引先との関係を継続。外部とのコラボレート商品や新商品の開発をしながら、引き続き販路開拓を行う。
 - 足立区内でもOUCHIの商品を通じて地域の人たちと利用者が交流できるような販路先を作っていきたい。
 - 大内病院売店でのパン販売を継続する。
 - CAFEの売上向上
 - 季節ごとのメニューやOUCHIの商品を使ったCAFEメニューを開発、提供する。
 - SNSを活用し、新メニューなどの情報を積極的に宣伝していく。
 - 職員、利用者ともに、明るくていねいな接客を心がけ、お客様に繰り返し来ていただけるようなCAFEを目指していく。

OUCHI HOME（共同生活援助）【定員：14名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 通過型の「OUCHI HOME」、滞在型の「グループホーム かりん」とともに、入居者が望む地域生活の実現のために日々の支援を行っている。一言に「自立」といっても、入居者それぞれでその形は異なってくるため、個々の入居者の特性やニーズに合わせたサービス提供を行っている。
 - サービスの質の向上
 - 入居者の体調管理、活動支援
 - 通院先、訪問看護、ACTなど、医療機関との情報共有を積極的に行い、入居者の体調、服薬管理などを行っていく。必要に応じて通院同行し、生活状況などで入居者が伝えきれない部分の報告を行うなどのサポートをする。
 - デイケアや作業所などの日中活動先と必要に応じて情報共有を行い、場合によっては同行するなどして連携を図る。
 - 大内病院の訪問看護ステーションとの定期的なミーティングを行うことで情報を共有し、双方ができる支援の確認をする。
 - イベントや行事の充実
 - 入院ではない環境で暮らすこと、仲間とともに暮らすことの楽しさを感じてもらうことを目的とする。
 - 食事会やクリスマス会などの行事を通して入居者同士のコミュニケーションの機会を増やし、入居者同士が支え合える関係性を構築する。
 - 昨年度初めて開催した「秋祭り」を継続。HOMEを卒業した方にも声をかけて入居者との交流の場を設けることで、入居者が退居後の生活をイメージする一助とする。
 - 入居者それぞれが退居先で自立した生活を送るための支援
 - ゴミの捨て方など、地域のルールに合わせたルール設定をすることで、GH入居中から退居後の生活を意識できるようにする。
 - 入居者本人ができることはそのまま維持しつつ、「やりすぎない支援」を意識したうえで、居室清掃など、日常生活に必要なスキルの獲得、向上を目指した支援を行っていく。
 - ヘルパーの導入など退居後に利用できる社会資源を想定し、入居中からそれを意識した支援を行う。

- 人材育成、職場環境の整備

- 研修の実施

- 虐待や権利擁護、防災等の法定研修の実施。
 - 社会資源や制度など入居者の支援に必要な知識に関する勉強会の実施。
 - 東京都主催の研修など、外部の研修への積極的な参加。

- 職場環境の改善

- 定期的に職員面談を行い、日頃の支援で困っていること、やってみたいことなどの聞き取りをする。
 - 週1回のスタッフミーティングを実施。うち1回は施設運営に関するミーティングとし、そのほかは入居者支援に関するミーティングとすることで、職員同士が意見交換をしながら同じ方向を向いて支援を行っていきける環境づくりに努める。

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
稼働率	91.6%	100.0% (+8.4%)
単価（人・日）	7,307円	7,550円 (+243円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 日頃の支援や面談を通じて入居者の変化に気づき、それを職員間で共有することで、入居者の不調に対して早期に介入し、再入院の予防や入院期間の短縮を図る。
 - 空室状況や空きの見込みなどの情報を大内病院と共有し、入居希望者の情報を得る。
 - 広報活動や関係機関との情報共有を行うと同時に、入退居のスケジュールを管理し、退居による空室発生から新規入居までの期間を短くする。
 - 2ヶ月に1回、区内の主要なグループホームが集まる「グループホーム連絡会」に参加し、各グループホームの空き状況や取り組みについての情報収集を行い、OUCHIでの支援の参考にする。
 - 広報ツールとして、Instagram等のSNSの活用も検討する。

- その他取り組み

- 「みんなでごはん」や「こころの健康フェスティバル」など、CAFE・KITCHENが

行うイベントにHOMEからも参加し、地域を意識した活動を行っていく。

- 現在もHOMEを退居した元入居者からのメールや電話での相談を受けている。中には、会いに来てくれる方もいるほど。引き続き、「GH退居＝支援終了」ではなく、退居後も必要に応じて支援を行っていく。

西新井まちの相談室（特定相談支援事業）

- 事業計画の概要

- 経営

- 精神障がい者の方が自らが望む場所で社会の一員として日常生活、または社会生活を営むことができるよう、解決すべき課題等を把握したうえで必要な福祉サービスの利用の支援を行う。利用者の意思及び人格を尊重し、利用者や家族に寄り添い支援を行う。基幹相談支援センター、地域生活支援拠点事業所、その他関係機関と連携し、チームアプローチの支援を行う。

- サービスの質の向上

- 利用者の生活状況、体調の把握
モニタリング以外の月も利用者の状況を把握できるように可能な限りご自宅や事業所を訪問し充実した生活が送れるよう支援をする。
 - 関係先との情報共有
利用者に何らかの問題が起きた場合は速やかに関連施設に情報を共有し問題解決に努める。
 - 利用者のエンパワメントを重視した相談支援
利用者の思いや将来に向けた願いを受け止め、利用者自身の力を発揮できるような支援を常に心掛ける。
 - 利用者に寄り添った支援
福祉サービスで解決できないこと、緊急で支援が必要なときなど利用者が困っている時は近くで寄り添い、支援者と協力して必要な支援を行っていく。
 - サービス利用終了後のフォロー
目標としていた就職や単身生活を開始してサービスの利用終了となった方のフォローを関係支援者と協力して行っていく

- 人材の確保と育成

- より多くの方々の支援ができるよう相談支援員の増員を目指し、人員が増

えた際もサービスの質が担保できるよう同行訪問やケースカンファレンスなど定期的に行う。また、基幹相談支援センターや関連施設などの研修会や連絡会議にも積極的に参加し資質向上に努める。

- 主な指標

- モニタリングや計画書作成などの毎月の支援件数が39件を超えることを目標

*2025年3月の見込み値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
支援者数（人・月）	33.9名	39名（+5.1名）
単価（人・月）	15,444円	15,332円（▲112円）

- 実現するための取り組み

- 新規利用者の獲得

2024年度は開設2年目で新規の受け入れが多かったが、一定数の定員となり次年度は新規数の減少が想定され、新規サービス利用支援費の減少及び単価の減少が見込まれる。そのため以下の取り組みで新規獲得を目指す。

- 安定した運営ができるように利用者獲得のためグループ施設と連携していく
- 担当利用者の利用する福祉サービス事業所との連携を強め、継続した営業も行う
- 関係各所と連携して支援終了者を増やし、新たに新規獲得を強化していく。

- グループ施設との連携

- 大内病院の入院患者や在宅サービスの利用者より対象となる方の受入れや情報の共有などスムーズに行えるように密な連携体制を整える

- 基幹相談支援センターや地域生活支援拠点事業所などの関係機関との連携

- 基幹型相談支援センターの主催する特定相談支援事業所の連絡会に参加し地域の相談支援員との関係性を深め、地域課題に協力して取り組めるよう連携を深める
- 利用者一人のニーズを地域のニーズと捉え、地域の自立支援協議会を地域課題解決のツールとして活用できるよう関係機関と連携していく

2025年度 事業計画 社会福祉法人 平成記念会

対象事業所

高齢者事業

岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

高齢者事業

岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

- 事業計画の概要

- 2025年度の岩国市委託料 16,200,000円/年 増額予定有り
- 常に公正と中立性を保ち、地域包括支援センターを運営する
- 介護予防・自立支援の促進と高齢者の社会参加・地域活動の促進を図る
- 地域包括ケアシステム構築に向けて地域や他機関と連携して業務に取り組む

- 主な指標

*2024年度：2025年3月の見込値を含む

	2024年度*	2025年度 目標
ケアプラン数	2,015名	1,723名（▲292名）
平均要介護度（要支援）	1.7	1.7（±0）
単価（人・月）	4,420円	4,420円（±0）

- 実現するための取り組み

- 登録者数

- 半年から1年の計画実施内でサービス卒業を目指すプランニングを継続する
- 自助、互助による取り組みを促し、介護予防・自立支援の促進を図る
- サービス終了後も状況把握を行い、必要時には早期介入を行う

- 平均要介護度

- 岩国市では要支援1の総合事業利用期間が原則6か月、要支援2は最長12か月となっている。要支援1も2も単価は同等。

- 加算について

- 初回加算：3,000円
- 委託連携加算：3,000円（全て委託の居宅に支払い）

- その他の取り組み

- 介護予防教室の開催

- 教室開催後「通いの場」としての活動継続をフォローする

- 地域ケア会議の開催

- 支援困難事例への地域ケア会議や地域全体での地域ケア会議を開催する

- 認知症対策の推進

- 認知症サポーター養成講座の開催等により、地域で見守る人を増やす

2025年度 事業計画書

(2025年4月1日 ～ 2026年3月31日)

社会福祉法人 平成記念会

サポートハウス ココロネ住吉

2025年度 事業計画の概要

概要

- 盤石な収益確保に向けて
 - 入所稼働率の安定
 - 急性期病院等への転院が必要なメンバーの早期発見、医療従事者とサポート室の連携を強化し、速やかに転院等の措置を図ることで、入院期間の長期化を予防します。
 - 入所・通所・外来の連携強化
 - 各部門の情報を横断的に共有することで、速やかに入所・短期入所・通所・外来を利用し、稼働率の向上を図ります。
 - 広報活動の強化
 - 発達検査外来や小児リハビリテーション外来、放課後等デイサービスについて、地域や関係機関への広報活動を強化し、患者数増加を図ります。
- 支出の適正化
 - 水光熱費の高騰が著しいことから、施設全体での水光熱費削減に向け、各部門の部署長を中心にコスト意識を持たせ、支出の適正化を行います。
- 職員の確保および定着化
 - 重症心身障害者施設を、より多くの医療従事者等に知ってもらうための広報活動を展開し、職員の確保を促進するとともに、ミスマッチによる早期離職を防ぎます。
 - 職員が働きやすい環境を構築するため、CS・ES委員会を中心に様々な意見を収集し、日々環境のアップデートを行い、職員の定着化を目指します。
- 地域とのつながり
 - 地域との交流機会を構築し、地域に根ざした施設づくりを行います。
- ケアの質の向上
 - 医療的ケアをはじめ、療育活動や保育活動など福祉面でのケアの質の向上を図るため、療育部組織の強化を図ります。

経営指標

医業収支

[]は、対前年

	23年度	24年度	25年度 目標	要点
- 医業収益	<u>744百万円</u>	980百万円 [+ 236百万円]	1,063百万円 [+ 83百万円]	療養介護費Ⅲ→Ⅰ 看護配置7 : 1
- 医業費用	<u>817百万円</u>	902百万円 [+ 85百万円]	962百万円 [+ 60百万円]	看護職員5.4名増 セラピスト2.0名増
- 医業利益	<u>▲73百万円</u>	78百万円 [+ 151百万円]	101百万円 [+ 23百万円]	
- 経常利益	<u>▲71百万円</u>	75百万円 [+ 146百万円]	94百万円 [+ 19百万円]	

入院・外来（病院）

	23年度	24年度	25年度 目標	要点
- 入院 稼働率全体	<u>36.7%</u>	87.0% [+ 50.3%]	94.0% [+ 7.0%]	1フロア50床にて稼働 想定
- 外来 患者延数	<u>9,022名</u>	9,187名 [+ 1.8%]	7,722名 [▲ 15.9%]	短期入所者枠の減少に より、外来数減
患者数／日	<u>30.7名</u>	31.5名 [+ 2.6%]	26.7名 [▲ 15.2%]	短期入所者枠の減少に より、外来数減

関連事業所

%：稼働率

	23年度	24年度	25年度 目標	要点
- 医療型障害児入所 施設	<u>2,232名</u>	2,918名 [+ 30.7%]	2,555名 [▲ 12.4%]	
- 療養介護	<u>7,867名</u>	11,437名 [+ 45.3%]	13,140名 [+ 14.8%]	
- 短期入所 (稼働率)	<u>71.9%</u>	58.8% [▲ 13.1%]	82.9% [+ 24.1%]	短期入所病床数 5→3床
- ココロネリビング (生活介護)	<u>1,030名</u>	1,506名 [+ 46.2%]	2,061名 [+ 36.8%]	
- ココロネクラブ (放課後等デイサービス)	<u>592名</u>	908名 [+ 53.3%]	969名 [+ 6.7%]	

その他

入院

全体【50床】

- 概要
 - 医療・療育・保育を行う全ての職員が共通の目的を持ち、協力しながら関わることのできる組織を構築し、メンバーの皆さまやご家族に安心していただける施設づくりを行います。
 - サポート室を中心に経営意識を高め、迅速な入所案内を実施します。
- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 稼働率	<u>36.7%</u>	92.1% [+ 55.4%]	99.0% [+ 6.9%]
- 単価／人・日	<u>38,697円</u>	38,994円 [+ 297円]	38,919円 [▲ 75円]
- 収益	<u>457百万円</u>	624百万円 [+ 36.5%]	668百万円 [+ 7.0%]

★稼働率＝長期入所と短期で計算

★収益＝長期入所と短期（診療報酬は除く）で計算

入院料別

障害者施設等入院基本料 7対1【50床】

- 概要
 - 急性期病院等への転院が必要なメンバーの早期発見、医療従事者とサポート室の連携を強化し、速やかに転院等の措置を図ることで、入院期間の長期化を予防します。
 - 空床時に速やかに補欠者をご案内できるスキームを作成し、必要に応じて短期入所を受け入れるなどして、空床補填を行います。
- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 稼働率	<u>36.7%</u>	92.1% [+ 55.4%]	99.0% [+ 6.9%]
- 単価／人・日	<u>38,697円</u>	38,994円 [+ 297円]	38,919円 [▲ 75円]
- 収益	<u>457百万円</u>	624百万円 [+ 36.5%]	668百万円 [+ 7.0%]

外来部門

全体

- 概要

- 発達検査外来は、近隣の医療機関と比較してスムーズに受診いただけるため、この強みを活かし、より多くの方に知っていただくため、積極的な広報活動を展開します。
 - 地域の医療機関や保育・教育機関への情報提供を行います。
 - ココロネ住吉のホームページやパンフレットを活用した情報発信を積極的に行います。これらの取り組みを通じて、発達に関する悩みを抱える方々が気軽に相談し、適切な支援を受けられるよう支援し、外来患者数の増加につなげていきます。

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 患者延数	<u>9,022名</u>	9,187名 [+ 1.8%]	7,662名 [▲ 16.5%]
- 患者数／日	<u>30.7名</u>	31.5名 [+ 2.6%]	26.7名 [▲ 15.2%]
- 単価	<u>8,438円</u>	7,740円 [▲ 698円]	7,740円 [+ ▲0円]
- 収益	<u>84百万円</u>	73百万円 [▲ 13.0%]	67百万円 [▲ 8.2%]

_★収益＝外来と短期（診療報酬を含む）で計算

診療科別

小児科

- 概要

- 小児科医療機関への広報活動を積極的に推進します。
- 予約から診察までの流れをよりスムーズにするため、公認心理師、サポート室、医事課、外来の連携体制を強化します。

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 患者延数	<u>1,027名</u>	1,178名 [+ 14.7%]	1,191名 [+ 1.1%]
- 患者数／日	<u>3.5名</u>	4.1名 [+ 17.1%]	4.2名 [+ 2.4%]

リハビリテーション科

- 概要

- 発達検査外来からリハビリテーションへの移行を進め、継続的にサポートできる体制を構築します。
- リハビリ外来の増加を目的として、重度心身障害児リハビリテーションに精通したセラピストを招聘し、患者およびその家族への支援を強化することを検討します。

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 患者延数	<u>6,137名</u>	4,569名 [▲25.5%]	4,620名 [+1.1%]
- 患者数／日	<u>20.9名</u>	15.6名 [▲25.3%]	16.1名 [+3.2%]

※1 短期入所リハビリテーション含

訪問診療・往診

- 概要

- ケアホーム住吉への定期訪問診療および急変時の往診対応を行います。

- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 患者延数	<u>1,858名</u>	1,755名 [▲5.5%]	1,785名 [+1.7%]
- 患者数／日	<u>6.3名</u>	6.0名 [▲4.7%]	6.3名 [+5.0%]

関連事業

医療型障害児入所施設【50床】

- 概要
 - 医療サービスにとどまらず、療育活動や保育活動を積極的に推進するため、生活支援員や病棟保育士が主体的に企画・運営できる環境を整備します。
- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 利用者数／日	<u>6.1名</u>	7.9名 [+29.5%]	7.0名 [▲11.3%]
- 単価	<u>10,495円</u>	11,886円 [+1,391円]	12,124円 [+238円]
- 収益	<u>49百万円</u>	70百万円 [+42.8%]	62百万円 [▲11.4%]

療養介護【50床】

- 概要
 - アセスメントや個別支援計画に基づき、個別対応の徹底を図ります。
 - 虐待防止のための以下の取り組みを行います。
 - 職員教育と研修
 - 環境の整備
 - 通報制度の整備
- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 利用者数／日	<u>21.5名</u>	31.3名 [+45.5%]	36.0名 [+15.0%]
- 単価	<u>5,388円</u>	7,090円 [+1,702円]	9,903円 [+2,813円]
- 収益	<u>44百万円</u>	85百万円 [+93.1%]	135百万円 [+58.8%]

短期入所【10床⇒5床⇒3床】

- 概要
 - 在宅で生活する方々を支えるため、また一人でも多くの方にご利用いただくため、機会均等となるようサポート室や療育部を中心に利用調整を行います。
- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 稼働率	<u>71.9%</u>	58.8% [▲13.1%]	82.9% [+24.1%]
- 単価	<u>37,612円</u>	41,460円 [+3,848円]	43,758円 [+2,298円]
- 収益	<u>67百万円</u>	44百万円 [▲34.3%]	41百万円 [▲6.8%]

ココロネリビング（生活介護）【10名】

- 概要
 - 利用者増に伴う、ニーズに沿った生活支援、支援の質を向上するため、生活支援員の確保と送迎体制を構築して、支援員が主体的に企画・運営できる環境を整備します。
- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 利用者延数	<u>1,030名</u>	1,506名 [+46.2%]	2,061名 [+36.8%]
- 利用者数／日	<u>4.2名</u>	6.1名 [+45.2%]	8.5名 [+39.3%]
- 収益	<u>22百万円</u>	32百万円 [+45.4%]	43百万円 [+34.3%]

ココロネクラブ（放課後等デイサービス）【5名】

- 概要
 - 個別支援計画の公開を元に、地域や関係機関への活動周知を強化し、連携、情報交換が出来る体制を整えて利用希望を増やせるように繋げます。
- 指標

	23年度	24年度	25年度 目標
- 利用者延数	592名	908名 [+ 53.3%]	969名 [+ 6.7%]
- 利用者数／日	2.4名	3.7名 [+ 54.1%]	4.0名 [+ 8.1%]
- 収益	13百万円	29百万円 [+ 123.0%]	31百万円 [+ 6.8%]

採用計画・人件費

※「人」は常勤換算数

採用計画

- 7対1入院基本料の基準取得へ向け、看護職員の採用を進めるとともに、段階的にセラピストを増員し、長期入所者へのリハビリ提供単位数の増加を目指します。

採用者数	25年度 見込み
- 総数	13.4人
- 職種別	看護師・准看護師
理学療法士	3.0人
作業療法士	
言語聴覚士	
生活支援員	2.0人

人件費

- (説明)

	23年度	24年度	25年度 見込み
- 職員総数	108.7人	117.4人 [+ 8.0%]	124.3人 [+ 5.8%]
- 人件費	586百万円	638百万円 [+ 8.8%]	692百万円 [+ 8.4%]
- 人件費率	78.7%	65.1% [▲ 13.6%]	65.1% [±0%]

以上